

性格調査との関連からみた本学学生の被服に 対する意識と行動について（第2報）

～統計手法赤池情報量規準による分析～

Actual Circumstances and Intent for Clothing of Otemae College Girls in Relation to Personality Research (Part 2)

～ The analysis by the statistics method of Akaike's Information Criterion ～

笹 山 益 子 青 海 邦 子
Masuko SASAYAMA Kuniko SEIKAI

1 はじめに

前回、我々は、若年層の被服全般に対する嗜好性、着用行動、被服素材選択および日本古来の和装（和服）に関する意識動向を把握するために、本学短期大学生（1、2年生329名）を対象とした心理尺度テスト（性役割志向性尺度（I S R O）、および女性に対する態度尺度（A T W））と被服全般に関する意識調査を質問紙方式（被験者に一部写真を提示する集合調査）で実施し、社会的心理学的な観点と日常生活の中で深く根づいている多様な被服行動との因果関係を把握するために、統計的手法を用いて検討・分析を試みた。

その結果、かなりの部分を占める被験者が、Dreyer, D. A.ら（1981）の主張する心理テストの研究結果に照らしてみると、比較的伝統的で保守的な行事を重んじる性向をもつグループに含まれることが明らかになり、男女の役割に関する平等観も弱いことが認められた。

一方、国内では、本年8月（平成元年）に新しい内閣が発足し、史上はじめての2人同時女性閣僚が誕生したのをはじめ、野党の女性党員をはじめとする相当数の女性議員が国会に進出し、国民の注目を浴びていることは衆知の事実である。従来より、どちらかというと男性優位の傾向が強かった政界においても、著しい変化のきざしが見られる昨今の現状を考えてみた時、前述の若年層の思考風潮は一見、矛盾しているかのように思える。我々は、これらの問題意識を念頭におき、前回の調査分析報告をふまえ、さらに多角的な分析検討を行って考察、検討を加えるとともに、Spence, J. T.ら（1972）のA T W、I S R Oテストについての若年層適用についての妥当性、信頼性および問題点について検証したので、ここに報告する。

性格調査との関連からみた本学学生の被服に対する意識と行動について（第2報）

2 調査の概要と目的

2・1 調査の対象者

短期大学服飾学科学生 女子329名（有効数）

2・2 調査時期

1988年6月27日～7月9日

2・3 調査方法

心理的スケールについては質問紙の配布による集合調査を行い、被服に対する意識と行動に関する調査では被験者に一部写真を提示し、同様に集合調査を実施した。

2・4 調査の内容

〔1〕心理テストとして、a. 性役割志向性尺度（以下ISROと略記する）：表1のQ11からQ116の16項目が該当する。b. 女性に対する態度尺度（以下ATWと略記する）：表2のQ117からQ131の15項目が該当する。これらの両者において尺度を調査し、各コード表¹⁾（表3・表4）により点数化した。個人得点の総合点を算出し、Spence, J. T. らおよびDreyer, D. A. らによる方法に準拠して総得点のカテゴリー化を行い、心理素項目との関連性を把握するために多次元分割表比較分析を行った。なお、心理素項目としては、アンケートⅠ（表1、表2参照）の項目Q11からQ131項目が該当する。

表1 性役割志向性尺度（ISRO）

変数名 (略号)	設問項目	カテゴリー 区 分	変数名 (略号)	設問項目	カテゴリー 区 分
Q11	女性は家庭の管理にあたるべきであり、国家の管理運営は男性に任せておくべきだ。	非常に賛成 1 やや賛成 2 どちらでもない 3 やや反対 4 非常に反対 5	Q16	キャリアを求める女性にとって、出産や育児がその障害となることがあるとはならない。	非常に賛成 1 やや賛成 2 どちらでもない 3 やや反対 4 非常に反対 5
Q12	女性がキャリアを求めるならば、大方の女性は子どもを持つべきではない。	非常に賛成 1 やや賛成 2 どちらでもない 3 やや反対 4 非常に反対 5	Q17	特別なケースを除き、妻が料理や掃除をやり、夫が家族のために金を稼いでくるべきだ。	非常に賛成 1 やや賛成 2 どちらでもない 3 やや反対 4 非常に反対 5
Q13	母親が働いていると、就学前の児童には害をおよぼことがある。	非常に賛成 1 やや賛成 2 どちらでもない 3 やや反対 4 非常に反対 5	Q18	女性にも男性と全く等しい雇用の機会が与えられるべきである。	非常に賛成 1 やや賛成 2 どちらでもない 3 やや反対 4 非常に反対 5
Q14	仕事を持つということは、自分自身の人生を生きているということだ。	非常に賛成 1 やや賛成 2 どちらでもない 3 やや反対 4 非常に反対 5	Q19	女性は家にいて、子どもの世話をしている方がずっと幸福である。	非常に賛成 1 やや賛成 2 どちらでもない 3 やや反対 4 非常に反対 5
Q15	子どもを生むことが女性の証である。	非常に賛成 1 やや賛成 2 どちらでもない 3 やや反対 4 非常に反対 5	Q110	働く母親でも、働いていない母親と全く同じように、子どもとの間にあたたかな安定した関係を確立することはできる。	非常に賛成 1 やや賛成 2 どちらでもない 3 やや反対 4 非常に反対 5

大手前女子学園（大手前女短大研集）「研究集録」第9号（1989年）

変数名 (略号)	設問項目	カテゴリー 区 分	変数名 (略号)	設問項目	カテゴリー 区 分
Q111	女性は自分のキャリアを 考えるよりも、まず 育児と家事を自分の仕 事であると心得るべき である。	非常に賛成 1 やや賛成 2 どちらでもない 3 やや反対 4 非常に反対 5	Q114	男でも女でも、同じ仕 事に対しては同じ賃金 (報酬) が支払われる べきだ。	非常に賛成 1 やや賛成 2 どちらでもない 3 やや反対 4 非常に反対 5
Q112	重要な仕事を数々抱え ても、やはり女性の本 来のいるべき場所は家 庭なのである。	非常に賛成 1 やや賛成 2 どちらでもない 3 やや反対 4 非常に反対 5	Q115	私は妻に働かせて自分 は家で子どもの世話を するような男性を尊敬 することはできない。	非常に賛成 1 やや賛成 2 どちらでもない 3 やや反対 4 非常に反対 5
Q113	私は、夫が家庭内の雑 用をうけもち、妻が家 計をまかなってもいい と思う。	非常に賛成 1 やや賛成 2 どちらでもない 3 やや反対 4 非常に反対 5	Q116	肉体的な重労働が女性に向か ないように、精神的、感情特質ゆ えに女性に向かない仕事もいろ いろあるということを、女性自 身が自覚すべきである。	非常に賛成 1 やや賛成 2 どちらでもない 3 やや反対 4 非常に反対 5

表2 女性に対する態度尺度 (A T W)

変数名 (略号)	設問項目	カテゴリー 区 分	変数名 (略号)	設問項目	カテゴリー 区 分
Q117	女性が下品な言葉を使 った場合、男性がそれ を使うよりも聞き苦し い。	非常に賛成 1 やや賛成 2 やや反対 3 非常に反対 4	Q125	社会における知的な主 導権は大部分、男性の 手にあるべきである。	非常に賛成 1 やや賛成 2 やや反対 3 非常に反対 4
Q118	女性が家庭外で活動して いる現代の経済状態のも とでは、男性も皿洗いや 洗濯のような家事を分 担すべきである。	非常に賛成 1 やや賛成 2 やや反対 3 非常に反対 4	Q126	熟練を要する仕事の門 戸は女性にも平等に開 かれるべきである。	非常に賛成 1 やや賛成 2 やや反対 3 非常に反対 4
Q119	結婚式で「あなたは、夫 に従いますか…」という一 節があるのは女性にとっ て侮辱的なことである。	非常に賛成 1 やや賛成 2 やや反対 3 非常に反対 4	Q127	多く稼いでいる女性は デートの時、等しく出 費を負うべきである。	非常に賛成 1 やや賛成 2 やや反対 3 非常に反対 4
Q120	結婚の申し込みは女性 からも自由にしてよい はずだ。	非常に賛成 1 やや賛成 2 やや反対 3 非常に反対 4	Q128	家庭の中で息子は娘よ り大学に行く事を奨励 されるべきである。	非常に賛成 1 やや賛成 2 やや反対 3 非常に反対 4
Q121	女性は女性としての権 利を主張するより、よ い母になることを重じ るべきである。	非常に賛成 1 やや賛成 2 やや反対 3 非常に反対 4	Q129	一般的に父親は育児に 際して母親より大きな 権威を持つべきである。	非常に賛成 1 やや賛成 2 やや反対 3 非常に反対 4
Q122	女性は事業においても、 また全ての職業におい ても、男性と同様にそ の実力にあった地位を 得るべきである。	非常に賛成 1 やや賛成 2 やや反対 3 非常に反対 4	Q130	男性によってこれまで つくられてきた「女らし さ」の考えを受け入れ るよりも、女性にとっ ては経済的、社会的自 由がはるかに重要であ る。	非常に賛成 1 やや賛成 2 やや反対 3 非常に反対 4
Q123	女性は男性が行く歓楽街 などへ行くと思っては ならない。また男性と 同じように自由気ままな 行動をとってもよい、 と思ってはならない。	非常に賛成 1 やや賛成 2 やや反対 3 非常に反対 4	Q131	雇用・昇進の際、女性 より男性が選ばなけれ ばならない仕事が多々 ある。	非常に賛成 1 やや賛成 2 やや反対 3 非常に反対 4
Q124	女性がブルドーザーを 運転したり、男性が編 物をするのは、ばかげ たことである。	非常に賛成 1 やや賛成 2 やや反対 3 非常に反対 4			

性格調査との関連からみた本学学生の被服に対する意識と行動について（第2報）

表3 ISROの採点コード

設問項目	非常に賛成	やや賛成	どちらでもない	やや反対	非常に反対
Q11	1	2	3	4	5
Q12	1	2	3	4	5
Q13	1	2	3	4	5
Q14	5	4	3	2	1
Q15	1	2	3	4	5
Q16	5	4	3	2	1
Q17	1	2	3	4	5
Q18	5	4	3	2	1
Q19	1	2	3	4	5
Q110	5	4	3	2	1
Q111	1	2	3	4	5
Q112	1	2	3	4	5
Q113	5	4	3	2	1
Q114	5	4	3	2	1
Q115	1	2	3	4	5
Q116	1	2	3	4	5

表4 ATWの採点コード

設問項目	非常に賛成	やや賛成	やや反対	非常に反対
Q117	0	1	2	3
Q118	3	2	1	0
Q119	3	2	1	0
Q120	3	2	1	0
Q121	0	1	2	3
Q122	3	2	1	0
Q123	0	1	2	3
Q124	0	1	2	3
Q125	0	1	2	3
Q126	3	2	1	0
Q127	3	2	1	0
Q128	0	1	2	3
Q129	0	1	2	3
Q130	3	2	1	0
Q131	0	1	2	3

〔2〕被服に対する意識と行動に関する調査としては、アンケートⅡ（表5）の項目Q2、Q31～Q329、Q41、Q42、Q43の項目が該当する。つぎに、Q41の項目の内容は、被験者各人のスタイル嗜好度をスタイル画〔第8号研究集録所収²⁾の『性格調査との関連からみた本学学生の被服に対する意識と行動について』参照〕を用いて、スポーティ、ドレッシー、カジュアルのカラー写真を被験者に提示して、好きなスタイルを選択させた。つづいて、Q42の項目の内容は、6葉の振袖の着装のカラー写真（その内容は表6に示す）を被験者に提示し、着てみたい振袖を選択させた。つづいて、Q43の項目の内容は、その振袖を選んだ理由（表7）を1つ選択させた。

表5 被服に対する意識と行動

変数名 (略号)	設問項目	カテゴリー 区 分
Q2	学 年	1. 短大1年生 2. 短大2年生
Q31	あなたは自分によく似合う服を上手に着こなしていると思いますか。	そう思う 1 ややそう思う 2 ややそう思わない 3 そう思わない 4
Q32	慶弔の式には伝統的な民族衣装である和服を着たいと思いますか。	そう思う 1 ややそう思う 2 ややそう思わない 3 そう思わない 4
Q33	成人式には着物を着たいと思いますか。	そう思う 1 ややそう思う 2 ややそう思わない 3 そう思わない 4
Q34	人間は服装よりも自分自身が大切だから、着るものにこだわらない方がよいと思いますか。	そう思う 1 ややそう思う 2 ややそう思わない 3 そう思わない 4
Q35	あなたは他人と同じような服装をするのが嫌いで、個性的な服を着る方であると思いますか。	そう思う 1 ややそう思う 2 ややそう思わない 3 そう思わない 4
Q36	あなたは有名ブランドの服を着たいと思いますか。	そう思う 1 ややそう思う 2 ややそう思わない 3 そう思わない 4
Q37	あなたは、TPOに合わせて適切な衣服を選んでいると思いますか。	そう思う 1 ややそう思う 2 ややそう思わない 3 そう思わない 4

大手前女子学園（大手前女短大研集）「研究集録」第9号（1989年）

変数名 (略号)	設問項目	カテゴリー 区 分	変数名 (略号)	設問項目	カテゴリー 区 分
Q38	あなたは服を購入する とき洗濯しやすい素材 を主に選んでいますか。	そう思う 1 ややそう思う 2 ややそう思わない 3 そう思わない 4	Q321	あなたはどちらかと云 えば華かな服装が好き な方であると思います か。	そう思う 1 ややそう思う 2 ややそう思わない 3 そう思わない 4
Q39	あなたは衣服が汚けれ たらすぐ洗って着てい ると思いますか。	そう思う 1 ややそう思う 2 ややそう思わない 3 そう思わない 4	Q322	あなたはお正月には着 物を着たいと思いま すか。	そう思う 1 ややそう思う 2 ややそう思わない 3 そう思わない 4
Q310	あなたは男性の目を意 識して衣服を選んで いると思いますか。	そう思う 1 ややそう思う 2 ややそう思わない 3 そう思わない 4	Q323	あなたはどちらかと云 うと目立たない地味な 服装が好きな方であ ると思いますか。	そう思う 1 ややそう思う 2 ややそう思わない 3 そう思わない 4
Q311	あなたは女性の目を意 識して衣服を選んで いると思いますか。	そう思う 1 ややそう思う 2 ややそう思わない 3 そう思わない 4	Q324	あなたは他人や周囲の 人達と同じような服 装をしている方が気 持が落ちつく方だ と思いますか。	そう思う 1 ややそう思う 2 ややそう思わない 3 そう思わない 4
Q312	成人式にはあなたは振 袖よりも個性的な洋 服を着たいと思いま すか。	そう思う 1 ややそう思う 2 ややそう思わない 3 そう思わない 4	Q325	あなたは少し高価でも デザイン品質のよい ものを選んで着たい と思いませんか。	そう思う 1 ややそう思う 2 ややそう思わない 3 そう思わない 4
Q313	あなたは夏祭には浴衣 も着たいと思いま すか。	そう思う 1 ややそう思う 2 ややそう思わない 3 そう思わない 4	Q326	あなたは流行は人より すぐに取り入れる方 であると思いま すか。	そう思う 1 ややそう思う 2 ややそう思わない 3 そう思わない 4
Q314	あなたは高級な毛皮を 着ている人はお金持 ちだと思いますか。	そう思う 1 ややそう思う 2 ややそう思わない 3 そう思わない 4	Q327	あなたは自分でも流行 に遅れないように する方であると思 いますか。	そう思う 1 ややそう思う 2 ややそう思わない 3 そう思わない 4
Q315	あなたはブランド商品 の方が高価だと思 いますか。	そう思う 1 ややそう思う 2 ややそう思わない 3 そう思わない 4	Q328	あなたは流行に関心は あるが洋服の着心地 や経済性および好 みを考えてから取り 入れる方である と思いませんか。	そう思う 1 ややそう思う 2 ややそう思わない 3 そう思わない 4
Q316	あなたは衣服を購入 する場合流行にと らわれず、素材が天 然繊維の服（綿・麻 ・絹・毛）を主に 選らんでいると思 いますか。	そう思う 1 ややそう思う 2 ややそう思わない 3 そう思わない 4	Q329	あなたは流行を追 わない方だと思 いますか。	そう思う 1 ややそう思う 2 ややそう思わない 3 そう思わない 4
Q317	あなたは夏は涼しく、 冬は暖かくという ように、実用性を 重んじる方だと思 いますか。	そう思う 1 ややそう思う 2 ややそう思わない 3 そう思わない 4	Q41	あなたが着てみたい と思うスタイルを 1～3 1つ選んで、 その番号を（ ） の中に書いて下 さい。	
Q318	あなたは服装によ って性的魅力を 発揮出来ると思 いますか。	そう思う 1 ややそう思う 2 ややそう思わない 3 そう思わない 4	Q42	あなたが着てみたい と思うふり袖を、 サンプル1～6の中 から1つ選んで、 番号を（ ）の中 に書いて下さい。	
Q319	あなたは自分の服 装に対して他人が どう思っている か気にする方 であると思いま すか。	そう思う 1 ややそう思う 2 ややそう思わない 3 そう思わない 4	Q43	あなたは着てみたい と思うふり袖を選 んだ理由1つを選 んで、番号に○を つけて下さい。	
Q320	あなたは服装は自 己表現の有力な 手段であると思 いますか。	そう思う 1 ややそう思う 2 ややそう思わない 3 そう思わない 4			

性格調査との関連からみた本学学生の被服に対する意識と行動について（第2報）

表6 ふり袖の選択項目

1	和洋折衷ふうでハイヒールを履き地色は多色
2	御所車の古典柄で地色は黒色
3	花柄総しぼりで地色は黄色系
4	大正ロマン風で半衿にはししゅうをあしらい地色は茶色系で金色
5	御所車の古典柄で地色は朱色系で金色をあしらっている
6	橘の古典柄で地色は鶯（とき）色

表7 ふり袖の選択した理由

1	全体の色調の調和が好ましいから選んだ
2	着物が洋服感覚で現代的だから選んだ
3	豪華だから選んだ
4	昔からある柄・和服向き模様なので選んだ
5	その他

2・5 計算とデータ処理の方法

第一報²⁾では、当該データをカイ2乗（ χ^2 ）検定を中心とした分割表分析を中心とした報告を行ったが、今回の分析法についていえば、分割表解析において赤池の情報量規準 A I C（Akaike's Information Criterion）を用いた最適な分割表モデルの選択を試みた。なお、種々の計算は京都大学大型計算機センターの F A C O M M-780/30システムを利用して行われた。A I Cによる統計解析には、文部省統計数理研究所で開発された C A T D A P（A Categorical Data Analysis Program Package）³⁾、種々の統計分析には S A S（Statistical Analysis System）⁴⁾を利用して行った。

3 A I Cによる分割表モデルの選択についての考え方

社会心理学・被服学および諸研究分野ではしばしば意識調査やパネル調査を実施し、対象者である被験者群の意識動向を把握するために各種の統計的方法を採用して解析することがよく行なわれる。いま表3のように2つ以上の特性（アイテム変数）について、いく

表3 分割表（クロス表）

アイテム変数(i) アイテム変数(j)		通 学 区 分		行 計
		1. 自 宅	2. 下 宿	
家 族 数	1. 3人以下	46	8	54
	2. 4人	208	10	218
	3. 5人以上	209	32	241
列 計		463	50	513

つかの 카테고리（クラス）に分類し、観測度数を求めた分割表（クロス表）によって両特性間の「関連性」を探ることが多い。フィッシャーによる独立性のカイの2乗（ χ^2 ）検定法はこのような当該特性間に「関連性があるか」、もしくは「関連性がないか」という客観的な判断を下すための統計量として広く用いられて来た。しかしながらカイ2乗検定法では、

〔1〕 サンプル数が増大すればカイ2乗値が大きな値をとる傾向⁵⁾にあり、特性変数の次数やカテゴリ数の増加はどのような尺度を用いても「関連度」の増大をもたらす不合理を招く場合がある。また特性間が“独立である（関連がない）”とする帰無仮説を棄却するための判断として経験的に採用される有意差の判定基準（たとえば1%とか5%）はそれ自体きわめて恣意的であること。

〔2〕 われわれの実施したアンケート調査に即していえば質問項目が100項目にも及び、これらの100項目の質問項目では、ある着目する特性変数1つについて100次元の分割表の作成が必要となる。さらに各特性変数相互間の交互作用効果を探ろうとすると独立性のカイ2乗検定法では不可能になる場合があること。

〔3〕 最も重要なことは、ある着目する変数を基準とした2つ以上の分割表を比較するという問題は独立性のカイ2乗検定では不可能であるという点である。〔1〕に関して付言すれば当該データをあつかう専門的・経験的知見を慎重かつ細心に導入しない限り見かけ上のカイ2乗値により「有意差あり」の判断で誤った判断を下すことにもなりかねないという重要な問題がある。

上述した諸問題を解決する統計的方法として赤池情報量規準 A I C（Akaike's Information Criterion）が提案された⁶⁾。

A I C は次式で定義される。

$$A I C = (-2) \log_e M + 2 K \dots\dots\dots (1)$$

M：与えられたデータによるそのモデルの最大尤度（尤度関数）

K：モデルのなかで自由に变化させることのできるパラメータ数

この A I C の値が低いほど良いモデルであると評価される。通常、最大尤度が大きいほど、モデルは良いとされるが A I C はパラメータ数の項を含むため、パラメータ数の少ないモデルをよりよいものとするという原理が、評価の中に加わっている。二つ以上のモデルの中から A I C 最小のモデルをもつモデルを M A I C E（Minimum AIC Estimate）と呼ぶ。

赤池⁷⁾によればカイ2乗検定法は A I C の立場から見ると“ふたつのモデルの比較”といわれる。例えば i, j 変数のカテゴリ数がそれぞれ n_1, n_2 からなる分割表間の変数“関連し合っている”とするモデル（有効モデル）と、A I C の立場からみて“関連がない”つまり独立であるとするモデル（無効モデル）は(2)および(3)式で表わされ、その制約式は(4)式および(5)式で与えられる。

性格調査との関連からみた本学学生の被服に対する意識と行動について (第2報)

$$A I C_1 = (-2) \sum_{i=1}^{n-1} \sum_{j=1}^{n-2} n(i,j) \log_2 \{n(i,j)/N\} + 2q \dots\dots\dots (2)$$

$$A I C_0 = (-2) \sum_{i=1}^{n-1} \sum_{j=1}^{n-2} n(i,j) \log_2 \{N(i \cdot)N(\cdot j)/N^2\} + 2q \dots\dots\dots (3)$$

$$\sum_{i=1}^{n-1} \sum_{j=1}^{n-2} p(i,j) = 1 \dots\dots\dots (4)$$

$$\sum_{i=1}^{n-1} p(i \cdot) = 1 \quad \sum_{j=1}^{n-2} p(\cdot j) = 1 \dots\dots\dots (5)$$

ただし $n(i,j)$ は (i,j) なる組合せが観測された頻度、 $p(i,j)$ はその組合せが発生する確率であり、 $N = \sum \sum n(i,j)$ はサンプルの総数をあらわす。また q は自由に動かすパラメータ ($p(i,j)$) 個数であり、 $N(i \cdot) = \sum_j n(i,j)$ と $N(\cdot j) = \sum_i n(i,j)$ はそれぞれ分割表の列計、行計を表わす。このようにして、(4)(5)の制約式のもとで有効モデル ($A I C_1$) と無効モデル ($A I C_0$) を計算し、その $A I C$ 値の小さい方のモデルを良いモデルとして採用するのである。つまり $A I C_1 - A I C_0 < 0$ であれば、分割表の特性変数間に“関連あり”とする有効モデルとして採用される。つまり各分割表に対応するモデルの尤度の比較によって確率分布の推定をめざしている。いま $A I C_1$ (有効モデル) と $A I C_0$ (無効モデル) をカイ二乗統計量

$$\chi^2 = \sum_{i,j} \{n(i,j) - n(i \cdot) n(\cdot j) / n\}^2 / \{n(i \cdot) n(\cdot j) / n\}$$

とすると漸近的につぎの関係が成り立つ

$$A I C = A I C_1 - A I C_0$$

$$\cong -(\chi^2 - 2 \times d \cdot f)$$

ここに $d \cdot f$ は自由度

このような $A I C$ の統計モデルの比較の方法を実現するための F O R T R A N ライブラリーが C A T D A P (A Categorical Data Analysis Program Package^{6)~9)}) である。

4 結果および考察

今回実施したアンケート調査は、女性の社会における役割と性役割の志向性を調査・探究するために、しばしば社会心理学分野で用いられる A T W (女性に対する態度尺度) テストおよび I S R O (性役割志向性尺度) テストの得点区分を形成する31項目の設問 (以後アンケート I と呼ぶ) と被服の着用・選択行動、和服への関心や被服素材に対する意識に関する32項目の設問 (以後アンケート II と呼ぶ) からなる。

アンケート I での個人総得点を Spence, J. T. ら (1972) および Dreyer, D. A. ら (1981) の方法に準拠してカテゴリー化を行い、そのカテゴリー化を行った A T W、I S R O を着目変数として、アンケート I の素項目を説明変数群として分析を行った結果を 4・1 節に述べ、次に心理テスト (A T W & I S R O) とアンケート II の考察を 4・2 節に、被服行動とアンケート I の考察を 4・3 節に、被服行動とアンケート II の考察を 4・4 節にそれ

それぞれ述べる。

4・1 心理テストと心理素点

A T W、I S R Oを着目変数として、アンケートⅠの素項目との関連性を把握するために、多次元分割表分析をA I C統計量を用いた分割表比較分析パッケージC A T D A Pにより分析を行った。

A T Wを着目変数とした場合の結果を表8に示した。

表8

	(説明変数)	カテゴリ数	AIC値	AICの差
1	Q125#25	4	-109.41	0.0
2	Q112#12	5	-55.49	53.92
3	Q124#24	4	-54.19	1.30
4	Q17#7	5	-49.45	4.74
5	Q121#21	4	-46.74	2.71
6	Q130#30	4	-46.06	0.68
7	Q126#26	4	-38.03	8.03
8	Q11#1	5	-37.42	0.62
9	Q119#19	4	-31.86	5.56
10	Q118#18	4	-31.37	0.49
11	Q131#31	4	-30.30	1.07
12	Q113#13	5	-28.62	1.67
13	Q128#28	4	-26.35	2.27
14	Q19#9	5	-25.87	0.48
15	Q122#22	4	-25.42	0.45
16	Q120#20	4	-24.45	0.97
17	Q129#29	4	-22.94	1.51
18	Q115#15	5	-17.25	5.68
19	Q111#11	5	-16.94	0.31
20	Q123#23	4	-16.82	0.12
21	Q127#27	4	-10.32	6.50
22	Q18#8	5	-7.60	2.72
23	Q117#17	4	-7.55	0.05
24	Q15#5	5	-6.99	0.57
25	Q110#10	5	0.32	7.31
26	Q16#6	5	0.76	0.43
27	Q12#2	5	3.34	2.58
28	Q114#14	5	5.17	1.83
29	Q116#16	5	10.54	5.37
30	Q14#4	5	11.12	0.58
31	Q13#3	5	11.46	0.33

表8はA T Wに対する説明変数のA I C値を小さい順にならべたものであり、A I C値が小さい（負の値）ほど情報量の多い（関連度の強い）ことを表わす。

A T Wの着目変数に対しては、設問項目Q125（社会における知的な主導権は大部分、男性の手にあるべきである）が最も関連度の強い説明変数となり、次いでQ112（重要な仕事を数々抱えていても、やはり女性の本来いるべき場所は家庭なのである）、Q124（女性がブルドーザーを運転したり、男性が編物をするのは、ばかげたことである）と続き、結局、説明変数31項目中24項目と関連性があることがわかった。

I S R Oを着目変数とした場合は、表9のA I C値から設問項目Q112と最も関連性が強く、Q17（特別なケースを除き、妻が料理や掃除をやり、夫が家族のために金を稼いでくるべきだ）、Q111（女性は自分のキャリアを考えるよりも、まず育児と家事を自分の仕事であると心得るべきである）の順に説明変数31項目中26項目との関連性がみられる。

次に、この分析により出力される関連性の強さの順位に対応する分割表から関連性をみれば、多くの興味ある情報が得られた。A T Wを着目変数とした場合は、項目Q125に対

性格調査との関連からみた本学学生の被服に対する意識と行動について（第2報）

表 9

(説明変数)		カテゴリー数	AIC値	AICの差
1	Q112#12	5	-140.20	0.0
2	Q17#7	5	-138.98	1.22
3	Q111#11	5	-115.35	23.62
4	Q19#9	5	-94.15	21.20
5	Q11#1	5	-81.34	12.81
6	Q121#21	4	-81.02	0.32
7	Q113#13	5	-74.21	6.81
8	Q118#18	4	-65.25	8.96
9	Q125#25	4	-45.92	19.33
10	Q115#15	5	-38.41	7.51
11	Q15#5	5	-33.42	5.00
12	Q122#22	4	-28.65	4.77
13	Q119#19	4	-28.18	0.47
14	Q18#8	5	-27.97	0.21
15	Q130#30	4	-25.11	2.86
16	Q110#10	5	-24.54	0.57
17	Q124#24	4	-21.79	2.75
18	Q12#2	5	-19.75	2.04
19	Q13#3	5	-13.98	5.77
20	Q126#26	4	-12.07	1.91
21	Q131#31	4	-9.60	2.46
22	Q123#23	4	-9.20	0.40
23	Q128#28	4	-3.17	6.03
24	Q114#14	5	-0.82	2.35
25	Q129#29	4	-0.70	0.12
26	Q116#16	5	-0.08	0.63
27	Q117#17	4	3.02	3.10
28	Q127#27	4	3.94	0.92
29	Q16#6	5	4.96	1.02
30	Q14#4	5	7.41	2.45
31	Q120#20	4	9.48	2.07

表10

(説明変数)		カテゴリー数	AIC値	AICの差
1	Q125#25 Q130#30	16	-91.14	0.0
2	Q125#25 Q126#26	16	-79.72	11.42
3	Q125#25 Q122#22	16	-71.47	8.25
4	Q125#25 Q121#21	16	-71.25	0.22
5	Q125#25 Q117#17	16	-69.55	1.70
6	Q125#25 Q124#24	16	-67.84	1.71
7	Q125#25 Q131#31	16	-67.73	0.12
8	Q125#25 Q118#18	16	-66.99	0.74
9	Q125#25 Q123#23	16	-62.22	4.77
10	Q125#25 Q128#28	16	-61.91	0.31
11	Q125#25 Q129#29	16	-61.16	0.75
12	Q125#25 Q119#19	16	-60.84	0.31
13	Q125#25 Q120#20	16	-60.36	0.49
14	Q125#25 Q127#27	16	-53.18	7.18
15	Q125#25 Q112#12	20	-52.42	0.76
16	Q125#25 Q19#9	20	-49.76	2.67
17	Q125#25 Q114#14	20	-46.45	3.31
18	Q125#25 Q18#8	20	-44.60	1.85
19	Q125#25 Q17#7	20	-40.82	3.78
20	Q125#25 Q113#13	20	-38.69	2.12
21	Q125#25 Q11#1	20	-36.02	2.67
22	Q125#25 Q110#10	20	-34.57	1.45
23	Q125#25 Q115#15	20	-34.53	0.04
24	Q125#25 Q16#6	20	-33.75	0.78
25	Q125#25 Q111#11	20	-32.87	0.88
26	Q125#25 Q116#16	20	-30.78	2.09
27	Q130#30 Q126#26	16	-27.52	3.26
28	Q125#25 Q14#4	20	-26.64	0.88
29	Q125#25 Q15#5	20	-23.69	2.95
30	Q125#25 Q12#2	20	-21.51	2.18
31	Q125#25 Q13#3	20	-15.93	5.58

大手前女子学園（大手前女短大研集）「研究集録」第9号（1989年）

しては、反対する者が多く、A T W（1～25点）の得点者では、反対意見よりも賛成意見の方が多くことや、Q112では、賛成意見が多く、特にA T Wの（1～25点）の得点者にこの傾向が強いことなどのA T Wの個人総得点を設問項目に対する考え方との関連性をくわしくみることができる。I S R Oを着目変数とした場合の関連性については、項目Q112には賛成意見が多く、I S R Oの（40～49点）の得点者の半数以上が賛成意見を持っており、Q17に対しても同様な結果であることなどがわかる。

＊順位に対応する分割表は紙幅の関係で掲載は割愛した。以下同様である。

説明変数の組合せを2変数に増加させた場合も表10に示したように、A T Wに対しては、Q125×Q130の組合せの関連性が強く、次いでQ125×Q126、Q125×Q122の順に31のすべての組合せと関連性があることがわかる。

表11

(説明変数)			カテゴリー数	AIC値	AICの差
1	Q112#12	Q121#21	20	-72.76	0.0
2	Q112#12	Q118#18	20	-68.06	4.70
3	Q112#12	Q122#22	20	-62.54	5.52
4	Q112#12	Q17#7	25	-53.65	8.89
5	Q112#12	Q117#17	20	-49.75	3.89
6	Q112#12	Q126#26	20	-48.21	1.54
7	Q112#12	Q130#30	20	-46.41	1.81
8	Q112#12	Q119#19	20	-45.85	0.55
9	Q112#12	Q111#11	25	-45.19	0.66
10	Q112#12	Q125#25	20	-44.05	1.14
11	Q112#12	Q123#23	20	-42.12	1.93
12	Q112#12	Q131#31	20	-35.61	6.50
13	Q112#12	Q124#24	20	-35.60	0.01
14	Q112#12	Q11#1	25	-34.81	0.80
15	Q112#12	Q19#9	25	-34.72	0.09
16	Q112#12	Q113#13	25	-34.62	0.11
17	Q112#12	Q129#29	20	-28.23	6.39
18	Q112#12	Q120#20	20	-27.75	0.48
19	Q121#21	Q122#22	16	-26.18	1.57
20	Q112#12	Q128#28	20	-24.21	1.96
21	Q112#12	Q18#8	25	-23.83	0.38
22	Q112#12	Q110#10	25	-23.50	0.33
23	Q112#12	Q127#27	20	-23.21	0.29
24	Q112#12	Q13#3	25	-17.56	5.65
25	Q112#12	Q114#14	25	-17.19	0.37
26	Q112#12	Q115#15	25	-16.23	0.96
27	Q112#12	Q12#2	25	-14.50	1.72
28	Q112#12	Q15#5	25	-2.78	11.72
29	Q112#12	Q116#16	25	-1.50	1.28
30	Q112#12	Q16#6	25	8.56	10.06
31	Q112#12	Q14#4	25	10.61	2.05

I S R Oに対しての2変数の組合せは、表11のように、Q112×Q121の組合せの関連度が強く、Q112×Q118、Q112×Q122の順に29の組合せと関連性がみられた。

また、A T Wとは関連性があるが、I S R Oとは無関係な説明変数としては、Q117（女性が下品な言葉を使った場合、男性がそれを使うよりもきき苦しい）、Q120（結婚の申し込みは女性からも自由にしてよいはずだ）、Q127（多く稼いでいる女性はデートの時、等しく出費を負うべきである）の社会的、経済的平等に関する3項目であり、反対にI S R Oとは関連があってA T Wとは無関係な説明変数は、Q12（女性がキャリアを求めるなら

性格調査との関連からみた本学学生の被服に対する意識と行動について（第2報）

ば、大方の女性は子どもを持つべきではない）、Q13（母親が働いていると、就学前の児童には害のおよぶことがある）、Q110（働く母親でも、働いていない母親と全く同じように、子どもとの間にあたたかな安定した関係を確立することはできる）の「育児・キャリアの葛藤」に関する3項目、およびQ114（男でも女でも、同じ仕事に対しては同じ賃金（報酬）が支払われるべきだ）、Q116（肉体的な重労働が女性に向かないように、精神的、感情的特質ゆえに女性に向かない仕事もいろいろあるということを、女性自身が自覚すべきである）の「家庭外労働にかかわる性役割」に関する2項目である。

他方、ATWとの関連性のない独立とみなされた説明変数項目は、ISROテストの設問項目であるQ12、Q13、Q16（キャリアを求める女性にとって、出産や育児がその障害となることがあってはならない）、Q110の育児・キャリアの葛藤に関するもの4項目と、Q14（仕事を持つということは、自分自身の人生を生きているということだ）、Q114、Q116の「家庭外労働にかかわる性役割」に関する3項目の計7項目となっている。

ISROと無関連の説明変数項目としては、ATWテストの設問項目中のQ117、Q120、Q127の社会的、経済的平等感にかかわる3項目、およびISROテストのQ14とQ16の2項目の計5項目であった。

なお、Q14とQ16の2項目がATWとISROの両方に対して無関係であることがわかった。

前回、心理調査スケールの各項目とATWやISROの総合点との相関係数を算出し、

表12

CONTINGENCY TABLE WITH THE OPTIMAL COMBINATION OF EXPLANATORY VARIABLES							
X(1):ATW#65			X(2):Q125#25				
X			RESPONSE VARIABLE				
2							
-							
			X(1)	1	2	3	4
1				22	2	0	0 24
2				94	8	0	0 102
3				87	59	1	0 147
4				8	34	9	5 56
TOTAL				211	103	10	5 329
			X(1)	1	2	3	4
1				91.7	8.3	0.0	0.0 100.0
2				92.2	7.8	0.0	0.0 100.0
3				59.2	40.1	0.7	0.0 100.0
4				14.3	60.7	16.1	8.9 100.0
TOTAL				64.1	31.3	3.0	1.5 100.0

各設問項目とA T WテストやI S R Oテストとの関連性について検討したところ、両テストと設問項目間の間の相関係数間には有意差はなく、共通性が認められた。

このことより、A T WかI S R Oのいずれか一方のテストを実施することにより、当該被服行動との関連性のある程度表現できるとの示唆が得られたが、今回のA I C統計量による分析結果からも、これを検証することができた。

いま、最適な変数の組合せについて検討すれば、A T Wに対しては、A T W×Q 125がA T Wを説明しうる最適の組合せであることがわかる。

A T Wを着目変数とした場合の最適組合せに対応する分割表（表12）（上段が頻度表、下段が百分率で示した表）から、A T Wグループ1（211名）のうち、Q 125の意見に賛成（ややも含む）が116名と過半数を越える者が肯定派なのに対し、A T Wグループ2（103名）のうち賛成者はわずか10名で全体の10%に過ぎず、逆に反対（ややも含む）は93名と大部分の者が反対意見に回答していることがわかる。

A T Wのカテゴリー区分で、男・女の役割分担に否定的なフェミニストに属する者は被験者全体の4.5%に過ぎず、大部分の被験者はA T Wのカテゴリー1（1～25点、64.1%（211名））、カテゴリー2（26～33点、31.3%（103名））に属している。その点では、本学学生の大部分は、Spence, J. T.らの説によるフェミニスト的態度に否定的（保守的）なグループに属するといえよう。

しかし、視点をかえて見ると、A T Wのグループ1とグループ2に属する者たちの説明変数に対する反応に大きな回答パターンの相違を見ることが出来る点に注目したい。“A

表13

CONTINGENCY TABLE WITH THE OPTIMAL COMBINATION OF EXPLANATORY VARIABLES

X(1):ISRO#66

X(2):Q112#12

X 1 2 3 4 5	RESPONSE VARIABLE					
	X(1)	1	2	3	4	5
1		20	40	8	1	0
2		11	67	42	3	0
3		0	15	59	10	0
4		0	3	32	9	0
5		0	0	1	6	2
TOTAL		31	125	142	29	2

X(1)	1	2	3	4	5
1	29.0	58.0	11.6	1.4	0.0
2	8.9	54.5	34.1	2.4	0.0
3	0.0	17.9	70.2	11.9	0.0
4	0.0	6.8	72.7	20.5	0.0
5	0.0	0.0	11.1	66.7	22.2
TOTAL	9.4	38.0	43.2	8.8	0.6

性格調査との関連からみた本学学生の被服に対する意識と行動について（第2報）

ATWの総得点が高位なほどフェミニスト傾向”という Spence, J. T. らの観点から考えると、AICによる多次元分割表分析で有意に選択された説明変数との分割表を検討することによって、ATWグループ1とグループ2の意見の差が明らかとなった。

ISROでは、ISRO×Q112がISROを説明しうる最適の組合せであり、対応する分割表（表13）より、Q112に対しては58.9%（192名）と半数以上が賛成意見（ややも含む）であるが、ISROの得点が低くなる程（伝統的な性役割志向性が強くなる程）賛成意見に回答する比率が大きくなっており、特にカテゴリー1（39点以下、31名）に属する者全員が肯定派であった。中間派（どちらでもないと思う者）も84名（25.5%）おり、その内グループ3（50～59点、142名）に属する物が59名（41.5%）を占める。

ISROに於いても、60点以上のフェミニストとしての性役割志向性の強い者は被験者全体の9.4%と少なく、大部分がカテゴリー3（50～59点、142名）、カテゴリー2（40～49点、125名）に属しており、やはり、本学学生は、Dreyer, D. A. らの説によるかなり伝統的な性役割志向性を持つ保守的グループに属している者が多いと考えられる。

4・2 心理テストとアンケートⅡ

ATW、ISROを着目変数として、被服に関する32項目（アンケートⅡの素項目）との関連性を検討するために、CATDAPにより分析を行い、AICの値を算出した。

ATWを着目変数とした場合の結果は次の通りである。

ATWテストの実施により、その総合点を Spence, J. T. らによる方法に準拠し、4段階に得点別にカテゴリー化を行ったATWクラスを着目変数とし、被服に関する32項目を説明変数とした場合の分割表間の比較結果が表14である。

表14

	(説明変数)	カテゴリー数	AIC値	AICの差
1	Q33#35	4	-5.42	0.0
2	Q324#56	4	-0.54	4.88
3	Q312#44	4	2.01	2.55
4	Q314#46	4	2.41	0.40
5	Q2#32	2	2.63	0.22
6	Q321#53	4	4.57	1.94
7	Q313#45	4	6.07	1.50
8	Q313#45	4	6.07	0.0

以下省略

ATWの得点分野で非フェミニストグループ（伝統尊重・保守型）と規定されるグループ1に属する者が被験者群の64.1%（211名）を占め、次いでグループ2（準伝統尊重・保守型）が31.3%（103名）を占める。グループ3、グループ4に属するフェミニスト型、革新型に属する者は全体の4.5%（15名）に過ぎない結果となった。説明変数群でこれらのATWクラスに対して最も関連がある（情報量が多い）変数として選択されたのはQ33（成人式には振袖を着たいと思いますか）であり、次いでQ324（あなたは他人や周囲の人達と同じような服装をしている方が気持ちが落ちつく方だと思いますか）であった。そ

のほかの30変数は有意な変数としては選択されなかった。Q33について分割表を検討すると、A T Wグループ1に属する73.5%（155名）の者が着たいと回答し、やや着たい13.7%（29名）を含めると87%の人達がQ33に対して肯定・希望的な意志を示している。A T Wグループ2（準伝統・保守型）については、「着たい」64.1%（66名）、やや着たい24%（25名）とやはり和服に対する着意意識は高い。

A T Wの得点区分がグループ1からグループ2、グループ3とカテゴリーが移るにつれて、伝統・保守型—フェミニスト・革新型という判定基準に準拠すれば、明らかに被験者が日本古来から伝統的な衣服である和服を選好していることは一応首肯しうる結果である。しかし、説明変数群にはQ33以外にQ32（慶弔の式には伝統的な民族衣装である和服を着たいと思いますか）、Q313（あなたは夏祭には浴衣も着たいと思いますか）、Q322（あなたはお正月には着物を着たいと思いますか）といった和服に関する設問項目があるにもかかわらず、これらはA T Wに対して無関連と判定されたことは一つの疑問として残った。その原因について検討して見ると、A T Wグループの第3、第4のグループに属する者の説明変数に対する回答パターン反応にバラツキのあることが微妙に影響を与えていることが判明した。

そこで、我々は、当該被験者群の大部分が含まれるA T Wグループ1とグループ2に着目し、A T Wグループ3、A T Wグループ4に属する被験者（15名）を除外して、改めてA I Cによる分割表比較分析を行った。こうして得られた結果が表15である。

表15

	(説明変数)	カテゴリー数	AIC値	AICの差
1	Q314#46	4	-4.35	0.0
2	Q324#56	4	-3.18	1.17
3	Q318#50	4	-2.09	1.09
4	Q21#32	2	-0.72	1.37
5	Q320#52	4	-0.50	0.21
6	Q32#34	4	0.18	0.68
7	Q33#35	4	0.72	0.54
8	Q313#45	4	0.79	0.08
9	Q31#33	4	1.15	0.36
10	Q39#41	4	1.45	0.30

以下省略

表15から明らかなように、表14とはA T Wの関連度の強さの順序がかなり変動し、最適と選択された変数はQ314（あなたは高級な毛皮を着ている人はお金持ちだと思いますか）で、次いでQ324（あなたは他人や周囲の人達と同じような服装をしている方が気持ちが落ちつく方だと思いますか）、Q318（あなたは服装によって性的魅力を発揮出来ると思いますか）、Q2（学年差）と続き、Q320（あなたは服装は自己表現の有力な手段であると思いますか）までが有意差のある項目として選択され、表14で第1位に選択されたQ33のA I C値は0.72とA T Wのグループ1、グループ2に関しては独立（無関連）と見なされる結果となった。

性格調査との関連からみた本学学生の被服に対する意識と行動について（第2報）

表15によって選択された説明変数を関連度の強い順に並べた分割表から得られた結果は次の通りである。ここで説明変数の質問形式で「そう思う」「ややそう思う」に属するグループを肯定グループ（派）、「ややそう思わない」「思わない」に属するグループを否定グループ（派）と見なして論及する。

Q 314（高級な毛皮を着ている人はお金持ちだと思いますか）の肯定派はグループ1であり、否定派はグループ2である。

Q 324（他人や周囲の人達と同じような服装をしている方が気持ちが落ちつく方だと思いますか）では、「ややそう思う」、「ややそう思わない」という中間的な意見はグループ1に多く、逆に「思う」、「思わない」という両極端の意見はグループ2に多い。

Q 318（服装によって性的魅力を発揮できると思いますか）についてもQ 324と同様の結果を得た。

Q 2（学年差）では、1年生はグループ2、2年生はグループ1の比率が高い。ATWの解釈度から言えば、高学年が保守・伝統型、低学年がフェミニスト・革新型といえるであろう。この現象は青年期におけるわずか1年間と思われる時間差が物事に対する価値尺度の推移をもたらすという一端を示唆しているように考察される。

最後に、Q 320（服装は自己表現の有力な手段であると思いますか）では、グループ1では否定的意見、グループ2では肯定的意見の支持比率が高いことが明らかになった。

このように、ATW尺度のカテゴリー縮約によってもたらされた結果を見れば、ATW尺度の有効変数として選択された項目のうちQ 318、Q 324については一見矛盾した結果のように考えられるが、被験者が多感な若年層であるという見地に立てばある程度肯首する結果と考えられる。今回の分析結果の検討過程で得られた知見に基づいて考察を加えるならば、ATW（ISRO）テストの得点区分や判定基準には特に年齢差（世代差）の制約がつけられておらず、年齢差によって何らかの重みづけ（ウェイト）が考慮されているのではないかという点である。「はじめに」にも記したように、時代の流動化と価値意識の尺度には「世代」間における意識差は無視できないからである。

ともあれ、和服に代表される伝統的衣服に対する選好態度や被服素材行動に対しては、我々の対象とした被験者群では圧倒的に伝統的・保守型に属することは前報でも明らかにした通りであるが、ATWというテストを軸とした分析結果をみると、「和服イコール伝統的・保守型」というイメージと共に「毛皮イコール生活階級意識（上流か中流階級）」の肯定的意見と否定。「自分らしい服装を着たい（個性派）とめだたない（たとえめだっても）みんなと一緒にのものを着る」グループとの意識と被服行動の差、さらに学年差間の微妙な意識変化といった構図が被験者の回答パターンを検討・把握することによって具体的に明らかになったことは、今後の我々の研究を進めていくうえで一定の示唆を与えるものである。

I S R O については、I S R O テストの結果、その総合点を Dreyer, D. A. らによる方法に準拠し、5 段階に得点別にカテゴリー化を行った I S R O を着目変数とし、被服に関する32項目を説明変数とした場合の分割表間の比較結果を表16に示す。

表16

	(説明変数)	カテゴリー数	AIC値	AICの差
1	Q312#44	4	-14.43	0.0
2	Q33#35	4	-3.44	11.00
3	Q41#62	3	-1.71	1.73
4	Q34#36	4	3.29	5.00
5	Q2#32	2	3.85	0.57
6	Q318#50	4	4.79	0.94
7	Q311#43	4	6.13	1.34
8	Q314#46	4	6.21	0.08

以下省略

I S R O の得点分野で、準伝統尊重・保守型のグループ3（50～59点）に属する者が被験者群の43.2%（142名）と多く、次いで50点以下の伝統尊重・保守型のグループ2が38.0%（125名）、グループ1が9.4%（31名）となっている。

フェミニストとしての性役割志向性が強いグループ4とグループ5に属する者は全体の9.4%（31名）であり、これは39点以下の極めて伝統的な性役割志向性の者と同比率となっている。

これらのI S R O クラスに対して、最も関連のある説明変数として選択されたのはQ312（成人式にはあなたは振袖よりも個性的な洋服を着たいと思いますか）であり、次いでQ33（成人式には振袖を着たいと思いますか）、Q41（着てみたいと思うスタイル）の3項目で、他の29変数は有意な変数として選択されなかった。

なお、グループ5に属する者は2名だけであり、この2名の説明変数群に対する意見の比率が分析結果、全体に与える影響が大きいために、このI S R O のグループ5に属する2名の被験者を除外し、改めてA I C による分割表比較分析を行い、表17のような結果が得られた。

表17

	(説明変数)	カテゴリー数	AIC値	AICの差
1	Q312#44	4	-18.30	0.0
2	Q33#35	4	-6.95	11.35
3	Q41#62	3	-4.65	2.30
4	Q34#36	4	-2.31	2.35
5	Q314#46	4	0.23	2.54
6	Q318#50	4	2.49	2.26
7	Q21#32	2	2.84	0.34
8	Q311#43	4	3.96	1.12

以下省略

表17からわかるように、表16に比べてI S R O の関連度の順位は変動していないが、A I C 値は各々やや増加しており、Q34（人間は服装よりも自分自身が大切だから、着るものにこだわらない方が良くと思いますか）が有意な変数として選択されている。

性格調査との関連からみた本学学生の被服に対する意識と行動について（第2報）

表17によって選択された説明変数を関連度の強い順に並べた分割表から関連性について検討すれば次のようである。

Q 312(成人式にはあなたは振袖よりも個性的な洋服を着たいと思いますか)に対しては、80.7% (327名中264名)と大部分が否定派であり、I S R O グループ1 (39点以下)では31名中27名 (87.2%)が否定しており、否定する比率が最も高い。逆に、肯定派は19.2% (63名)と少数ではあるが、肯定する比率はフェミニストとしての性役割志向性が強くなる程高くなり、グループ4では肯定・否定の両極端の意見に分れている。

Q 33 (成人式には振袖を着たいと思いますか)では、大部分 (85.6%、280名)が肯定派であり、保守型になる程肯定する比率は高く、I S R O グループ1では肯定する比率が最も高くなっている。否定派は全体の14.3% (47名)であるが、フェミニストの程度が強くなる程Q 33の設問に対して否定する比率は高く、Q 312の場合と同様の傾向が認められる。

Q 41 (着てみたいと思うスタイル)では、ドレッシィを選択する者が61.2% (200名)と相当多く、次いでスポーティ (35.2%、115名)となるが、心理テストのグループ別比率から見てこの傾向が強く表われているのはグループ1であり、グループ2がこれに続いている。

Q 34 (人間は服装よりも自分自身が大切だから、着るものにこだわらない方がよいと思いますか)では、否定派が64.6% (211名)と相当多く、比率から見ればグループ3、グループ2に否定派が多いことがわかる。肯定・否定の両極端の意見はグループ4に多い。

以上のように、I S R O テストを軸とした分析結果においてもA T W テストの場合と同様に、「和服 (特に振袖) イコール伝統的・保守型」という傾向を示す結果となった。

しかし、Q 41やQ 34に対する被験者の回答パターンの多様性から考えると、「伝統的な性役割志向性をもつ女性は、その行動が古い世代から受けつがれた習慣や慣例によって規定されている¹⁰⁾」とはいえ、若年層の被服に対する考え方、つまり、意識に関しては、より深い研究と洞察が必要であることを痛感した。

4・3 被服行動とアンケートⅠ

心理調査の各設問項目 (31項目) を説明変数とし、これらの説明変数項目が被服行動に関する設問項目 (32項目) のそれぞれ着目する変数に対して、どのような関連性があるかを検討するために分析を行い、A I C 値を算出した。

その結果を表18、および図1に示す。

表18は、各着目変数に対する説明変数のA I C 値を示したものであり、A I C 値 (一) が小さいほど情報量の多い (関連度の強い) ことを表わす。

図1は、表18の着目変数に対する説明変数のA I C 値の大小を一目でみられるように数字で表現したものであり、1～4の大きい数字の箇所に対応する変数同士ほど関連が強く、

大手前女子学園（大手前女短大研集）「研究集録」第9号（1989年）

表18（続く）

EXPLANATORY VARIABLES	Q11#1	Q12#2	Q13#3	Q14#4	Q15#5	Q16#6	Q17#7	Q18#8
(Q2#32)	3.84	7.46	6.27	5.37	3.61	6.43	3.63	6.21
(Q31#33)	9.92	5.43	8.29	10.79	-2.93	13.79	7.63	14.23
(Q32#34)	17.16	16.89	10.22	11.20	8.54	11.85	7.30	14.40
(Q33#35)	16.06	4.66	9.63	15.13	-2.22	15.09	-3.76	0.98
(Q34#36)	16.59	13.50	1.87	2.13	8.49	10.65	10.83	21.15
(Q35#37)	8.72	12.23	10.53	8.64	1.47	12.03	0.63	16.20
(Q36#38)	18.05	11.35	8.85	10.39	10.68	11.45	5.96	7.43
(Q37#39)	1.03	16.66	9.98	11.07	9.18	17.01	1.85	9.66
(Q38#40)	18.46	18.83	12.62	8.68	12.98	10.86	13.37	16.58
(Q39#41)	14.15	13.80	12.91	19.79	14.29	16.67	8.36	13.03
(Q310#42)	8.62	15.99	6.96	12.06	3.92	13.07	14.51	5.86
(Q311#43)	11.85	18.10	11.95	9.59	9.55	10.59	10.63	6.67
(Q312#44)	9.37	17.92	8.52	-0.31	5.87	16.82	-2.31	3.38
(Q313#45)	12.54	2.35	16.54	-4.12	8.25	11.98	3.66	13.13
(Q314#46)	16.34	10.56	12.80	4.73	4.38	6.64	9.31	15.53
(Q315#47)	11.22	11.16	10.79	6.29	9.74	11.72	8.86	6.68
(Q316#48)	13.84	12.35	9.64	6.57	14.75	6.80	11.87	4.12
(Q317#49)	16.60	16.70	13.72	11.13	16.71	12.56	16.88	15.92
(Q318#50)	9.35	11.16	4.07	12.19	9.86	9.97	11.49	-2.38
(Q319#51)	7.82	13.01	5.52	13.03	2.58	14.71	8.88	14.52
(Q319#51)	7.82	13.01	5.52	13.03	2.58	14.71	8.88	14.52
(Q320#52)	9.68	12.70	13.61	4.70	15.03	16.41	12.97	12.03
(Q321#53)	9.37	1.12	6.29	-3.41	14.92	10.42	5.22	15.72
(Q322#54)	9.80	12.67	6.00	12.48	10.14	15.31	12.10	14.51
(Q323#55)	12.73	10.24	12.26	11.71	10.28	-3.65	6.56	16.00
(Q324#56)	6.36	12.56	6.41	16.50	-3.15	8.13	3.82	9.60
(Q325#57)	12.79	17.74	12.66	7.42	16.39	17.06	16.06	6.66
(Q326#58)	13.76	17.97	12.93	8.72	16.85	4.79	3.81	7.85
(Q327#59)	17.08	9.80	9.53	11.26	6.27	19.12	6.95	1.91
(Q328#60)	16.58	6.21	-3.32	12.34	10.45	3.21	8.56	1.59
(Q329#61)	13.30	19.95	3.38	6.59	2.87	11.10	6.37	13.20
(Q41#62)	3.69	6.41	10.48	10.05	-1.10	10.49	11.09	0.99
(Q42#63)	19.21	25.20	15.88	25.55	26.14	20.41	19.99	20.37
(Q43#64)	14.65	11.42	17.45	19.22	13.75	-1.91	15.04	17.02

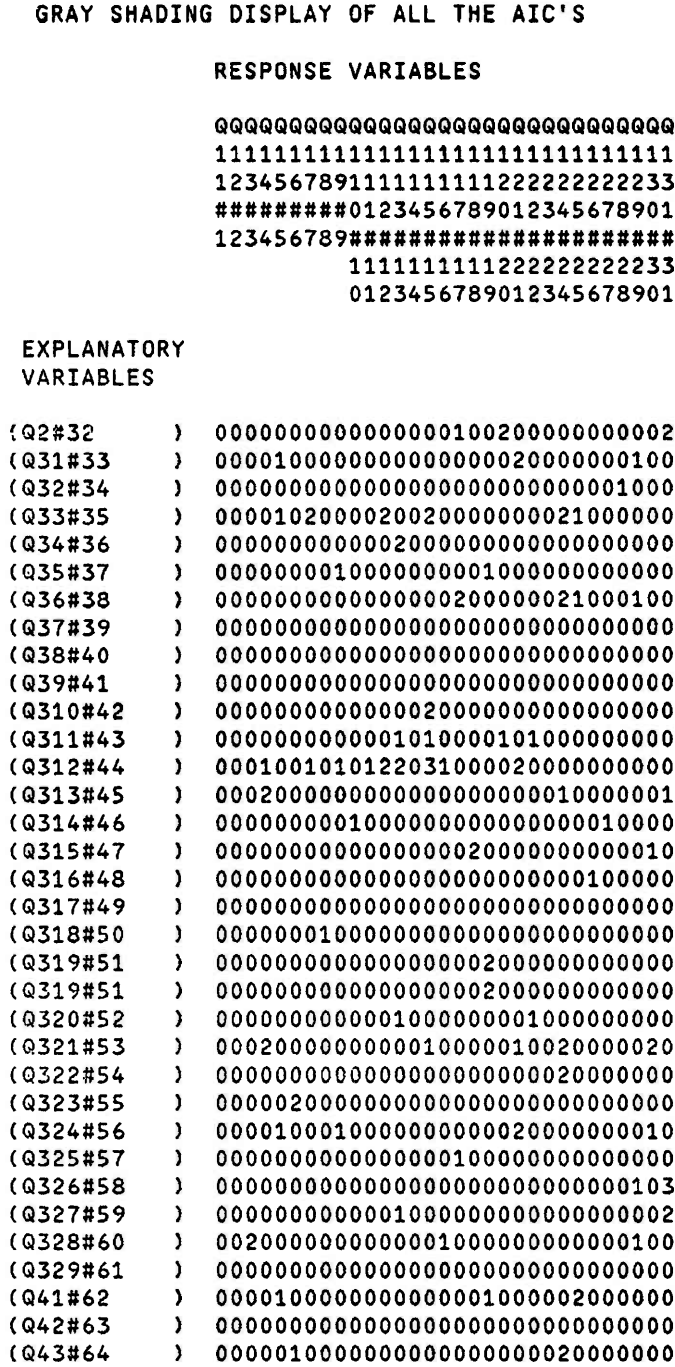
EXPLANATORY VARIABLES	Q19#9	Q110#10	Q111#11	Q112#12	Q113#13	Q114#14	Q115#15	Q116#16
(Q2#32)	0.34	4.43	0.53	7.78	6.56	6.58	2.02	1.27
(Q31#33)	16.97	13.38	0.80	6.21	11.43	15.92	9.19	11.62
(Q32#34)	8.04	12.28	11.16	14.75	6.59	22.96	11.24	15.12
(Q33#35)	9.37	17.28	0.78	-7.16	5.59	11.65	-5.46	17.43
(Q34#36)	12.35	11.33	2.18	3.18	-3.55	7.33	4.75	7.91
(Q35#37)	-0.57	13.39	8.24	3.77	2.10	10.46	4.51	16.26
(Q36#38)	10.82	16.80	17.42	9.69	13.58	19.24	10.95	12.78
(Q37#39)	17.76	14.95	16.52	11.09	15.94	16.29	14.71	15.09
(Q38#40)	10.03	20.50	16.94	6.71	16.51	8.91	4.51	10.98
(Q39#41)	18.56	18.03	16.69	13.78	12.46	9.62	16.26	15.47
(Q310#42)	11.47	12.06	17.26	9.67	1.39	11.10	-4.93	17.48
(Q311#43)	7.53	14.73	9.32	14.79	-2.25	10.33	-1.93	16.48
(Q312#44)	-0.40	2.77	-1.24	-14.14	-13.16	17.81	-19.04	-1.43
(Q313#45)	12.16	10.14	17.73	4.75	12.29	8.82	14.80	16.62
(Q314#46)	4.55	-1.04	2.96	8.76	12.29	18.19	7.40	11.93
(Q315#47)	16.81	16.93	16.95	10.76	12.00	18.18	11.23	2.45
(Q316#48)	13.63	12.74	16.78	9.48	13.65	7.99	10.22	10.64
(Q317#49)	14.36	14.94	21.12	11.11	21.37	11.35	15.85	13.67
(Q318#50)	8.13	17.24	12.58	17.95	5.84	18.73	3.85	9.26
(Q319#51)	6.78	18.74	4.51	12.42	14.36	8.17	3.42	13.31
(Q319#51)	6.78	18.74	4.51	12.42	14.36	8.17	3.42	13.31
(Q320#52)	5.21	5.55	9.19	11.18	-1.15	5.06	13.87	18.21
(Q321#53)	6.76	9.02	5.57	9.87	0.68	16.97	-0.24	12.79
(Q322#54)	17.59	11.66	15.69	0.17	8.80	7.10	7.75	19.34
(Q323#55)	18.94	12.42	0.37	18.05	16.06	20.08	0.33	14.43
(Q324#56)	-0.06	8.58	10.25	3.92	12.33	16.84	15.30	13.11
(Q325#57)	15.66	11.54	16.85	7.57	3.92	7.84	16.20	14.08
(Q326#58)	19.13	6.45	14.16	0.52	11.49	8.72	15.77	11.92
(Q327#59)	14.26	3.75	6.03	11.20	-1.09	5.11	6.81	16.90
(Q328#60)	8.84	7.66	16.08	15.62	16.42	14.98	11.35	-0.14
(Q329#61)	7.55	18.17	12.59	6.57	15.69	11.23	8.25	8.57
(Q41#62)	4.14	5.94	4.95	4.46	0.30	8.95	11.50	6.92
(Q42#63)	23.01	14.36	25.89	24.45	12.97	17.68	19.04	20.26
(Q43#64)	16.09	7.52	20.76	14.30	10.55	15.94	14.60	14.42

性格調査との関連からみた本学学生の被服に対する意識と行動について (第2報)

表18 (続き)

EXPLANATORY VARIABLES	Q117#17	Q118#18	Q119#19	Q120#20	Q121#21	Q122#22	Q123#23	Q124#24
(Q2#32)	-1.96	5.08	4.04	-5.47	1.66	2.84	2.88	4.44
(Q31#33)	14.44	9.91	0.50	10.91	-3.92	8.26	3.74	8.28
(Q32#34)	10.87	7.14	4.26	9.63	12.53	6.83	11.98	4.56
(Q33#35)	10.18	10.66	11.12	7.53	1.03	12.81	10.31	-6.86
(Q34#36)	13.16	4.48	11.86	5.59	2.20	4.04	12.89	6.53
(Q35#37)	3.28	10.98	-2.11	10.78	8.15	12.10	12.89	7.14
(Q36#38)	-5.37	12.76	10.47	13.26	1.81	8.82	7.68	-6.74
(Q37#39)	15.07	10.05	13.93	8.44	5.35	2.53	11.44	11.47
(Q38#40)	6.72	14.73	10.27	12.79	10.47	10.60	8.37	12.18
(Q39#41)	12.25	8.45	9.07	3.48	10.45	9.06	8.34	8.81
(Q310#42)	12.80	11.27	1.97	9.77	10.57	12.13	3.57	10.94
(Q311#43)	13.16	7.58	9.87	-0.17	3.71	-2.01	14.09	10.00
(Q312#44)	7.67	0.00	12.72	6.69	-6.19	8.56	10.38	1.86
(Q313#45)	7.58	12.56	12.31	6.93	13.82	1.84	13.99	-2.22
(Q314#46)	8.86	8.41	2.30	6.97	5.61	12.93	11.41	7.99
(Q315#47)	11.99	-3.56	5.72	6.08	10.17	13.42	7.72	0.98
(Q316#48)	8.06	9.30	2.21	2.98	1.74	13.11	13.67	8.99
(Q317#49)	7.82	11.28	8.77	7.74	10.30	8.39	11.18	5.68
(Q318#50)	1.73	14.49	7.56	8.28	11.87	9.11	12.36	2.73
(Q319#51)	0.65	9.75	-14.24	5.41	6.35	12.95	12.80	4.25
(Q320#52)	0.65	9.75	-14.24	5.41	6.35	12.95	12.80	4.25
(Q321#53)	12.18	15.26	9.95	7.42	6.11	-0.99	1.79	8.29
(Q322#54)	10.05	13.25	8.76	10.53	-2.54	11.39	6.39	-6.15
(Q323#55)	8.67	13.41	11.52	7.53	9.30	12.01	5.48	-4.56
(Q324#56)	0.13	12.62	6.85	13.94	5.13	14.87	11.77	11.60
(Q325#57)	8.82	9.09	15.55	2.64	-4.89	10.26	6.47	6.36
(Q326#58)	-0.34	1.41	14.93	13.42	9.67	5.55	4.09	11.36
(Q327#59)	11.32	14.26	12.69	9.21	1.33	6.41	6.89	7.01
(Q328#60)	14.64	10.82	6.86	9.89	2.16	5.97	12.14	9.08
(Q329#61)	10.44	12.07	6.19	11.83	11.59	11.80	7.15	8.58
(Q41#62)	1.59	8.31	7.41	9.90	5.69	11.61	7.61	2.51
(Q42#63)	9.93	8.35	-0.28	4.50	2.50	8.48	2.19	9.79
(Q43#64)	18.96	20.82	19.74	18.35	17.00	11.85	20.04	14.27
(Q43#64)	14.54	3.10	2.68	16.64	14.86	10.03	7.73	-6.02

EXPLANATORY VARIABLES	Q125#25	Q126#26	Q127#27	Q128#28	Q129#29	Q130#30	Q131#31
(Q2#32)	4.64	3.17	1.90	4.64	3.15	3.71	-6.29
(Q31#33)	7.28	5.84	4.99	10.04	-2.53	8.35	9.53
(Q32#34)	11.33	12.53	5.75	-1.03	6.13	0.37	4.51
(Q33#35)	-3.14	16.36	14.49	7.38	9.91	2.44	4.85
(Q34#36)	1.18	13.53	1.26	9.98	3.18	9.48	8.91
(Q35#37)	3.73	9.36	6.63	7.68	1.39	8.31	6.04
(Q36#38)	-1.61	13.94	6.25	6.13	-2.40	0.98	3.83
(Q37#39)	13.79	0.70	12.11	4.38	7.04	8.21	12.87
(Q38#40)	11.99	6.14	1.43	2.38	0.80	9.10	7.68
(Q39#41)	8.41	9.68	13.16	10.40	5.08	10.16	10.88
(Q310#42)	11.15	13.31	3.74	14.72	3.20	4.80	0.97
(Q311#43)	14.70	13.19	7.08	13.66	0.96	12.80	4.91
(Q312#44)	2.98	10.63	7.89	12.63	8.97	3.70	5.75
(Q313#45)	12.81	6.84	0.21	6.68	4.04	4.21	-2.08
(Q314#46)	10.73	15.48	-2.89	7.09	14.37	9.62	12.81
(Q315#47)	2.59	12.95	13.27	5.01	0.70	-2.90	5.50
(Q316#48)	8.79	-1.93	6.27	11.87	1.95	7.33	8.54
(Q317#49)	7.07	12.69	7.81	9.92	1.86	14.98	14.59
(Q318#50)	3.98	15.93	2.49	3.52	0.36	10.31	5.91
(Q319#51)	13.99	7.83	9.73	8.94	2.52	1.26	13.99
(Q320#52)	13.99	7.83	9.73	8.94	2.52	1.26	13.99
(Q321#53)	6.24	2.35	9.30	9.17	2.50	10.38	12.01
(Q322#54)	14.80	2.16	12.40	5.17	13.90	-3.53	3.76
(Q323#55)	3.76	10.00	7.06	7.62	11.98	9.17	8.66
(Q324#56)	10.66	11.26	3.22	2.87	8.69	13.70	14.46
(Q325#57)	2.56	5.54	6.55	9.30	0.58	-1.14	3.50
(Q326#58)	8.70	1.04	2.88	3.13	8.88	6.76	2.87
(Q327#59)	11.48	5.45	16.14	2.17	-1.55	8.46	-17.75
(Q328#60)	14.20	15.52	2.70	4.89	11.75	13.16	-4.91
(Q329#61)	7.29	12.51	6.45	14.35	-2.98	8.43	6.83
(Q41#62)	5.89	3.47	9.71	13.44	10.41	10.99	5.98
(Q42#63)	-4.83	6.68	0.19	7.12	7.26	6.53	3.55
(Q43#64)	12.99	18.96	13.01	2.99	15.11	13.56	24.87
(Q43#64)	10.35	13.45	12.71	11.52	8.83	4.78	9.88



< N O T E >

4 :	AIC/NSAMP <	-0.100
3 :	-0.100 < AIC/NSAMP <	-0.050
2 :	-0.050 < AIC/NSAMP <	-0.010
1 :	-0.010 < AIC/NSAMP <	0.0
0 :	0.0 < AIC/NSAMP	

図 1

性格調査との関連からみた本学学生の被服に対する意識と行動について（第2報）

0の箇所はその欄に対応する変数同士がA I Cの立場からみて独立（無関係）であることを示している。

これからわかるように、Q 37、Q 38、Q 39、Q 317、Q 329、Q 42の6項目が心理の各設問項目と関連性がみられず独立であった。

この分析結果から、被服行動に関する32項目中の5項目をそれぞれ着目変数とした場合の関連性について考察する。

まず、Q 33（成人式には振袖を着たいと思いますか）を着目変数とした場合には、投入した説明変数群のなかでは、Q 112（重要な仕事を数々抱えていても、やはり女性の本来いるべき場所は家庭なのである）が最も関連性が強く、以下Q 124（女性がブルドーザーを運転したり、男性が編物をするのは、ばかげたことである）、Q 115（私は、妻に働かせて自分は家で子どもの世話をするような男性を尊敬することはできない）、Q 17（特別なケースを除き、妻が料理や掃除をやり、夫が家族のために金を稼いでくるべきだ）、Q 125（社会における知的な主導権は大部分、男性の手にあるべきである）、Q 15（子どもを生むことが女性の証である）と次いでいる。

一方、Q 111（女性は自分のキャリアを考えるよりも、まず育児と家事を自分の仕事であると心得るべきである）以降の説明変数、つまりQ 18（女性にも男性と全く等しい雇用の機会が与えられるべきである）、Q 121（女性は女性としての権利を主張するより、よい妻、よい母になることを重んじるべきである）といった項目は、着目変数Q 33に対しては独立（関連性がない）という結果を得た。

これらの順位に対応する分割表について検討してみると、「成人式には振袖を着たいと思う」と回答した者は全体の68.7%で、「やや着たい」を合わせると肯定派は85.4%と大部分を占めている。

Q 33のカテゴリー1（成人式には振袖を着たいと思う）の226名に着目して、心理の設問項目との関連で検討してみると、この226名が肯定（ややも含む）している項目は、Q 112の65.0%（被験者全体では58.4%）、Q 115の52.7%（全体では47.4%）、Q 15の54.9%（全体では49.2%）であり、逆に否定しているのはQ 124の56.6%（全体では62.3%）およびQ 125の57.1%（全体では61.7%）であった。

なお、明確な意志表示を避けた中間的意見（どちらでもない）がかなり多く、全体で見ればQ 112では25.5%、Q 115が27.1%、Q 17が25.5%、Q 15が34.0%となっている。

つまり、「成人式には振袖を着たいと思う」者の半数以上は、家庭での男女の役割については、昔ながらの古風な考え方を持っているが、社会的、職業的な男女の平等観は強いといえよう。

Q 35（あなたは他人と同じような服装をするのが嫌いで、個性的な服を着る方であると思いますか）を着目変数とした場合には、関連性のある項目はQ 119（結婚式で「あなたは、

夫に従いますか…」という一節があるのは女性にとって侮辱的なことである」とQ19（女性は家にいて、子どもの世話をしている方がずっと幸福である）の2項目だけであった。

対応する分割表より、「個性的な服をやや着ない方だと思う」との回答者は、全体の49.8%で、「着る方だと思わない」を合わせれば60.4%となり、否定派は相当多い。

Q35のカテゴリー3と4（否定派）に属する者は、Q119の設問に対して否定意見が強く、Q19に対しては中間派（どちらでもない）が最も多く、否定派が肯定派よりやや多く、Q35のカテゴリー1に属する者が否定する比率が高くなっている。

Q36（あなたは有名ブランドの服を着たいと思いますか）を着目変数とした場合は、関連性のある項目を情報量の多い順に記すと、Q124（女性がブルドーザーを運転したり、男性が編物をするのは、ばかげたことである）、次いでQ117（女性が下品な言葉を使った場合、男性がそれを使うよりも聞き苦しい）、Q129（一般的に父親は育児に際して母親より大きな権威を持つべきである）、Q125（社会における知的な主導権は大部分、男性の手にあるべきである）であり、これらはすべてATWテストの設問項目である。

対応する分割表から、「高級ブランドの服を着たい」（ややも含む）と回答した者は全体の71.7%（236名）と多い。

Q124に対しては、否定派が全体の62.3%と多く、Q36のカテゴリーが1～4（肯定から否定）となるにつれて、Q124の設問に対する否定意見の比率が高くなっている。

Q117に対しては、ほとんどが肯定派である。

Q129に対しては、肯定派が半数以上であり、Q36のカテゴリー3にその比率が高い。逆に否定する比率が高いのは、Q36のカテゴリー4に属する者である。

Q125には、否定派が相当多く、Q36のカテゴリー4にその比率が高い。

つまり、高級ブランドの服を着たいと思わない者は、職業や知的主導権に対する男女の平等観がやや強い傾向であることが読みとれる。

Q318（あなたは服装によって性的魅力を発揮できると思いますか）を着目変数とした場合の有意な項目は、Q18（女性にも男性と全く等しい雇用の機会が与えられるべきである）だけであり、他の項目はQ318に対して無関連と判定された。

対応する分割表より検討してみると、「服装によって性的魅力を発揮できるとやや思う」との回答者が全体の35.0%ではあったが、否定派の方が51.1%（168名）と多くなっている。

Q18に対しては、肯定派が全体の77.2%と多く、肯定する比率はQ318のカテゴリー1と2（服装により性的魅力を発揮できると思う）の方がやや高くなっている。

Q328（あなたは流行に関心があるが、洋服の着心地や経済性および好みも考えてから取り入れる方であると思いますか）を着目変数とした場合は、Q13（母親が働いていると、就学前の児童には害のおよぶことがある）、Q129（一般的に父親は育児に際して母親より大きな権威を持つべきである）、Q116（肉体的な重労働が女性に向かないように、精神的、

性格調査との関連からみた本学学生の被服に対する意識と行動について（第2報）

感情的特質ゆえに女性に向かない仕事もいろいろあるということ、女性自身が自覚すべきである）の順に関連性が認められた。

対応する分割表より、「流行は考えてから取り入れる（ややも含む）」と回答した者は被験者全体の87.9%（289名）と圧倒的に多い意見である。

Q13に対しては、肯定派は全体の51.0%と多く、中間派も28.9%とかなり多い。

Q129に対しては、肯定派は全体の59.9%であり、肯定する比率はQ328のカテゴリー1と2（流行は考えてから取り入れる方であると思う）の方が高くなっている。

CATDAPでは、着目変数に対して、説明変数を2変数、3変数と順次増加させた場合のAIC値も出力されるが、このすべての組合せにおいて関連性が認められなかった。

次に、CATDAPで出力される最適変数の組合せについてみれば、Q33（成人式には振袖を着たいと思いますか）を着目変数とした場合の最適組合せに対応する分割表（表19）から、Q33×Q112の2変数の組合せがQ33を説明する最適の組合せであることがわかる。

表19

CONTINGENCY TABLE WITH THE OPTIMAL COMBINATION OF EXPLANATORY VARIABLES
X(1):Q33#35 X(2):Q112#12

X — 2 —	RESPONSE VARIABLE				
	X(1)				
	1	2	3	4	
1	60	6	1	2	69
2	87	18	9	9	123
3	48	20	6	10	84
4	29	9	4	2	44
5	2	2	3	2	9
TOTAL	226	55	23	25	329

X(1)	1	2	3	4	
1	87.0	8.7	1.4	2.9	100.0
2	70.7	14.6	7.3	7.3	100.0
3	57.1	23.8	7.1	11.9	100.0
4	65.9	20.5	9.1	4.5	100.0
5	22.2	22.2	33.3	22.2	100.0
TOTAL	68.7	16.7	7.0	7.6	100.0

Q112（重要な仕事を数々抱えていても、やはり女性の本来いるべき場所は家庭なのである）にやや賛成する者が123名（全体の37.4%）と最も多く、その内87名（70.7%）が成人式に振袖を着たいと思う者である。また、「どちらでもない」意見の者も84名（25.5%）おり、その内48名（57.1%）が振袖を着たい者である。またQ112に非常に賛成する者は69名（21.0%）で、その内60名は振袖を着たいと思う者で、「女性は家庭にいたるべき」と

大手前女子学園（大手前女短大研集）「研究集録」第9号（1989年）

いう伝統的な考えを持つ者は、成人式には伝統的な日本の民族衣装である振袖を着る傾向がみられる。

同様に、Q35（あなたは他人と同じような服装をするのが嫌いで、個性的な服を着る方であると思いますか）での最適の組合せは、対応する分割表（表20）から、Q35×Q119の2変数の組合せとなる。

表20

CONTINGENCY TABLE WITH THE OPTIMAL COMBINATION OF EXPLANATORY VARIABLES

X(1):Q35#37

X(2):Q119#19

X — 2 —	RESPONSE VARIABLE					
	X(1)	1	2	3	4	
1		5	14	8	0	27
2		21	33	43	9	96
3		13	44	85	22	164
4		2	8	28	4	42
TOTAL		31	99	164	35	329

X(1)	1	2	3	4	
1	18.5	51.9	29.6	0.0	100.0
2	11.5	34.4	44.8	9.4	100.0
3	7.9	26.8	51.8	13.4	100.0
4	4.8	19.0	66.7	9.5	100.0
TOTAL	9.4	30.1	49.8	10.6	100.0

表21

CONTINGENCY TABLE WITH THE OPTIMAL COMBINATION OF EXPLANATORY VARIABLES

X(1):Q36#38

X(2):Q124#24

X — 2 —	RESPONSE VARIABLE					
	X(1)	1	2	3	4	
1		18	19	2	9	48
2		19	37	16	4	76
3		27	61	23	11	122
4		23	32	10	18	83
TOTAL		87	149	51	42	329

X(1)	1	2	3	4	
1	37.5	39.6	4.2	18.8	100.0
2	25.0	48.7	21.1	5.3	100.0
3	22.1	50.0	18.9	9.0	100.0
4	27.7	38.6	12.0	21.7	100.0
TOTAL	26.4	45.3	15.5	12.8	100.0

性格調査との関連からみた本学学生の被服に対する意識と行動について（第2報）

Q119（結婚式で「あなたは、夫に従いますか…」という一節があるのは女性にとって侮辱的なことである）にやや反対する者は164名（全体の49.8%）で、その内85名（51.8%）が個性的な服をやや着ない方だと思っている者である。特に、Q119に非常に反対している42名の内28名（66.7%）は、Q35のカテゴリー3（否定派）に属する者であり、個性的な服に関心の薄い者は伝統的な規則に束縛されやすいという傾向を示している。

Q36（あなたは有名ブランドの服を着たいと思いますか）での最適組合せは、対応する分割表（表21）から、Q36×Q124の2変数の組合せとなる。

Q124（女性がブルドーザーを運転したり、男性が編物をするのは、ばかげたことである）にやや反対する者は122名（全体の37.1%）で、その内61名（50.0%）は有名ブランドの服をやや着たいと思う者である。

表22

CONTINGENCY TABLE WITH THE OPTIMAL COMBINATION OF EXPLANATORY VARIABLES
X(1):Q318#50 X(2):Q18#8

X	RESPONSE VARIABLE					
2	X(1)	1	2	3	4	
1		18	54	24	27	123
2		20	36	49	26	131
3		4	22	24	6	56
4		4	2	4	5	15
5		0	1	2	1	4
TOTAL		46	115	103	65	329

X(1)	1	2	3	4	
1	14.6	43.9	19.5	22.0	100.0
2	15.3	27.5	37.4	19.8	100.0
3	7.1	39.3	42.9	10.7	100.0
4	26.7	13.3	26.7	33.3	100.0
5	0.0	25.0	50.0	25.0	100.0
TOTAL	14.0	35.0	31.3	19.8	100.0

Q318（あなたは服装によって性的魅力を発揮できると思いますか）に対しては、Q318×Q18が最適の組合せであり、対応する分割表（表22）より、Q18（女性にも男性と全く等しい雇用の機会が与えられるべきである）に非常に賛成する者は123名（全体の37.4%）で、その内54名（43.9%）が服装により性的魅力を発揮できるとやや思う者である。

Q328（あなたは流行に関心はあるが、洋服の着心地や経済性および好みを考えてから取り入れる方であると思いますか）に対しては、Q328×Q13が最適の組合せであり、対

応する分割表（表23）より、Q13（母親が働いていると、就学前の児童には害のおよぶことがある）にやや賛成する者が138名（全体の41.9%）で、この内流行を考えてから取り入れる者（ややも含む）は116名（84.0%）と多く、流行に対して慎重である者は育児にも思慮深いのであろうか。

表23

CONTINGENCY TABLE WITH THE OPTIMAL COMBINATION OF EXPLANATORY VARIABLES
X(1):Q328#60 X(2):Q13#3

X 2	RESPONSE VARIABLE				
	X(1)	1	2	3	4
1		23	3	3	1
2		58	58	19	3
3		32	53	9	1
4		18	19	2	0
5		11	14	2	0
TOTAL		142	147	35	5

X(1)	1	2	3	4
1	76.7	10.0	10.0	3.3
2	42.0	42.0	13.8	2.2
3	33.7	55.8	9.5	1.1
4	46.2	48.7	5.1	0.0
5	40.7	51.9	7.4	0.0
TOTAL	43.2	44.7	10.6	1.5

4・4 被服行動とアンケートⅡ

Q31 あなたは自分に似合う服を上手に着こなしていると思いますか。

Q31を着目変数とし、同様の被服行動に関する32項目（以下同様）の説明変数をA I Cの分割表比較分析（CATDAP）を行ない着目変数に対して情報量の多い順（関連度の強い順）に並べかえて示したものが表24である。

まず、Q31の設問は「自分によく似合う服を上手に着こなしていると思うか」という被験者に自己採点を課している質問である。ここでは第3者でない被験者自身の主張が反映する。被験者群で「そう思う（31名）」9.4%、「ややそう思う（171名）」52%、「ややそう思わない（100名）」30.4%、「思わない（27名）」8.2%という回答比率を見ると被服学科の学生にしては、控え目な結果と思われる。

分割表比較分析の結果、Q326「人よりすぐに流行を取り入れる方と思うか」が最も強い関連性があり、次いでQ35「他人と同じような服装をするのが嫌いで、個性的な服を着る方であると思うか」、Q37「TPOに合わせて衣服の選択」、Q318「服装によって性的魅力を発揮できると思うか」、Q2「学年差」とも関連性がある。さらにみても、異性

性格調査との関連からみた本学学生の被服に対する意識と行動について（第2報）

表24

	(説明変数)	カテゴリー数	AIC値	AICの差
1	Q326#58	4	-46.62	0.0
2	Q35#37	4	-32.79	13.83
3	Q37#39	4	-20.31	12.48
4	Q318#50	4	-12.69	7.62
5	Q21#32	2	-4.16	8.53
6	Q316#48	4	-2.95	1.21
7	Q324#56	4	-2.58	0.37
8	Q312#44	4	-2.50	0.09
9	Q320#52	4	-1.84	0.66
10	Q310#42	4	-1.67	0.17
11	Q323#55	4	-1.17	0.50
12	Q311#43	4	-0.83	0.34
13	Q321#53	4	-0.14	0.69
14	Q33#35	4	-0.29	0.11
15	Q327#59	4	0.29	0.31
16	Q319#51	4	0.37	0.08
17	Q313#45	4	0.85	0.49
18	Q317#49	4	1.42	0.57
19	Q325#57	4	1.82	0.40
20	Q38#40	4	2.96	1.14
21	Q329#61	4	4.66	1.69
22	Q315#47	3	5.03	0.37
23	Q41#62	4	6.96	1.93
24	Q39#41	4	9.62	2.66
25	Q43#64	4	9.72	0.10
26	Q32#34	4	10.44	0.72
27	Q36#38	4	11.72	1.28
28	Q322#54	4	12.65	0.94
29	Q314#46	4	12.91	0.25
30	Q34#36	4	12.93	0.02
31	Q328#60	4	12.93	0.01
32	Q42#63	6	20.20	7.27

や同性に対する意識（Q310、Q311）に関する項目も有意な変数として選択されている。一方、被服行動における他人に対する意識（Q319）に関する項目と和服の着装行動に関する項目（Q32、Q322、Q34、Q42）については、Q31「上手に服を着こなしていると思うか」に対して無関係という結果になった。

Q31に対して関連度の強い順に分割表（表25）について検討してみる。

表25

(Q31#33)						(Q31#33)					
	1	2	3	4			1	2	3	4	TOTAL
(Q326#58)						(Q326#58)					
1	4	5	0	0	9	1	44.4	55.6	0.0	0.0	100.0
2	14	37	8	2	61	2	23.0	60.7	13.1	3.3	100.0
3	9	111	66	9	195	3	4.6	56.9	33.8	4.6	100.0
4	4	18	26	16	64	4	6.3	28.1	40.6	25.0	100.0
TOTAL	31	171	100	27	329	TOTAL	9.4	52.0	30.4	8.2	100.0
	1	2	3	4			1	2	3	4	TOTAL
(Q35#37)						(Q35#37)					
1	11	16	4	0	31	1	35.5	51.6	12.9	0.0	100.0
2	15	53	23	8	99	2	15.2	53.5	23.2	8.1	100.0
3	2	90	59	13	164	3	1.2	54.9	36.0	7.9	100.0
4	3	12	14	6	35	4	8.6	34.3	40.0	17.1	100.0
TOTAL	31	171	100	27	329	TOTAL	9.4	52.0	30.4	8.2	100.0
	1	2	3	4			1	2	3	4	TOTAL
(Q37#39)						(Q37#39)					
1	16	52	9	3	80	1	20.0	65.0	11.3	3.8	100.0
2	14	99	70	16	199	2	7.0	49.7	35.2	8.0	100.0
3	1	16	19	7	43	3	2.3	37.2	44.2	16.3	100.0
4	0	4	2	1	7	4	0.0	57.1	28.6	14.3	100.0
TOTAL	31	171	100	27	329	TOTAL	9.4	52.0	30.4	8.2	100.0

大手前女子学園（大手前女短大研集）「研究集録」第9号（1989年）

ここで設問の「そう思う」、「ややそう思う」を肯定グループ、「ややそう思わない」、「そう思わない」を否定グループとして表わし、特記すべき事項の検討を行う。

Q 326（流行をすぐに取り入れるか）は肯定グループが70名（21.3%）で流行に対しては消極的な態度でありQ 31の回答パターンと強い正の相関関係を示している。

次にQ 35（個性的な服の着用）では肯定グループが39.5%（130名）、否定グループは60.5%（199名）である。この設問は着目変数である「着こなし」と「個性的な服」の字句を変えた類似的な項目ではあるが、「個性的な服」という字句のイメージに消極的な態度を示したように考えられる。次いで3位に選択されたQ 37（T P O）について検討すれば、肯定グループ84.8%（279名）と多くの者がT P Oを重視している。Q 31で肯定グループの回答したものにQ 37の肯定グループと対応する回答をした者が多いことと、Q 31で「そう思わない」と回答したものでQ 37で「そう思う」と回答した者の比率が平均よりも極端に少ないことが特記すべきことである。これはT P Oには関心がありよく用いているものの、自分の着こなしは余り自信がないという謙虚さか、消極性のあらわれと解釈できよう。つづいて、Q 310（男性の目を意識して衣服の着用）、Q 311（女性の目を意識して衣服の着用）は異性、同性の眼を意識しているかを問う設問であるがQ 31に対して男性の眼（Q 310）とのA I C値は-1.67、女性の眼（Q 311）は-0.83でA I C値の差は僅かであり（A I C値が1以上差があれば分割表間に差があるといわれる¹¹⁾）順位はQ 310（男性の目の意識）が上位であるが着目変数Q 31に対しては、同程度の関連性とみなすことができる。被服の着こなしや選択行動においては、他人の眼ということを意識せざるを得ないのであろう。ここでQ 31に対して無関連とされた和服着装行動に関する項目のうち、最も情報量の多かったQ 32（慶弔に和服の着装）について検討してみる。Q 32の肯定グループは59.3%（195名）で否定グループは40.7%（134名）である。肯定グループ、否定グループの比率で見た場合にはQ 31と大差なくより詳細に調べて見るとQ 32の「そう思う」は26%（Q 31は9.4%以下同様）、「ややそう思う」は33.1%（52%）、「ややそう思わない」28.6%（30.4%）、「そう思わない」12.2%（8.2%）と選好の度合が異なること、Q 31の回答パターンとQ 32のそれとがランダムに分布していることからQ 32は、多くの者にかなり積極的に支持されていることと、Q 31の謙虚、消極的な傾向との関連性は、認められないと解釈される。

したがって、Q 31「自分によく似合う服を上手に着こなしていると思うか」に対しては、流行意識や個性的な服に対してはあこがれや羨望をもちながらも一面躊躇しながら、一方ではT P Oや他人の眼を意識しながら、被服の着こなしや選択行動を行っていることがわかった。また、学年間でも意識の差（Q 31に対して1年生はやや肯定派、2年生はやや肯定と否定派に分かれる）に有意差が認められた。

C A T D A Pはさらに着目変数に対して2説明変数の組合せにおけるA I C値（表26）を算出する。これによれば、「Q 326×Q 2」の組合せが最も関連度が強く、「Q 326×Q 35」、

性格調査との関連からみた本学学生の被服に対する意識と行動について（第2報）

表26

	(説明変数)		カテゴリー数	AIC値	AICの差
1	Q326#58	Q2#32	8	-44.28	0.0
2	Q326#58	Q35#37	16	-17.88	26.39
3	Q326#58	Q41#62	12	-10.25	7.63
4	Q326#58	Q37#39	16	-9.44	0.81
5	Q326#58	Q316#48	16	-7.87	1.57
6	Q326#58	Q312#44	16	-5.41	2.46
7	Q326#58	Q317#49	16	-4.11	1.29
8	Q326#58	Q315#47	16	-2.96	1.16
9	Q326#58	Q33#35	16	-1.17	1.78
10	Q326#58	Q324#56	16	-0.22	0.95
11	Q326#58	Q321#53	16	0.05	0.27
12	Q326#58	Q318#50	16	0.08	0.03
13	Q326#58	Q38#40	16	0.09	0.01
14	Q326#58	Q310#42	16	1.69	1.60
15	Q326#58	Q319#51	16	1.92	0.24
16	Q326#58	Q328#60	16	1.96	0.04
17	Q326#58	Q320#52	16	3.02	1.06
18	Q326#58	Q32#34	16	4.04	1.02
19	Q326#58	Q323#55	16	5.54	1.50
20	Q326#58	Q313#45	16	6.03	0.49
21	Q326#58	Q43#64	16	6.06	0.03
22	Q326#58	Q311#43	16	6.48	0.42
23	Q2#32	Q41#62	6	6.74	0.25
24	Q326#58	Q325#57	16	7.18	0.44
25	Q326#58	Q39#41	16	8.12	0.94
26	Q326#58	Q36#38	16	9.32	1.20
27	Q326#58	Q322#54	16	9.56	0.23
28	Q326#58	Q34#36	16	10.21	0.66
29	Q326#58	Q327#59	16	11.60	1.39
30	Q326#58	Q314#46	16	14.14	2.54
31	Q326#58	Q329#61	16	18.53	4.40
32	Q326#58	Q42#63	24	52.56	34.03

「Q 326×Q 41」の組合せが続く。ここで興味深いのは1説明変数では“独立”と判定されたQ 41（スタイルの嗜好度）、Q 317（実用性を重んじる）、Q 315（ブランド商品が高価）等の変数がQ 326（流行をすぐ取り入れる）と組合せられるとそれぞれA I C 値は-10.25、-4.11、-2.96となり被服の着こなしや選択行動（Q 31）に対して有意な説明変数グループに入ってくることである。さらにC A T D A Pでは着目変数に説明変数との最適組合せを算出する。その最適説明変数の組合せを表27に、その分割表を表28に示す。表28によれ

表27

	(説明変数)		カテゴリー数	AIC値	AICの差
1	Q326#58		4	-46.62	0.0
2	Q326#58	Q2#32	8	-44.28	2.34
3	Q35#37		4	-32.79	11.49
4	Q37#39		4	-20.31	12.48
5	Q326#58	Q35#37	16	-17.88	2.42
6	Q318#50		4	-12.69	5.20
7	Q326#58	Q41#62	12	-10.25	2.43
8	Q326#58	Q37#39	16	-9.44	0.81
9	Q326#58	Q316#48	16	-7.87	1.57
10	Q326#58	Q312#44	16	-5.41	2.46
11	Q2#32		2	-4.16	1.25
12	Q326#58	Q317#49	16	-4.11	0.04
13	Q326#58	Q315#47	16	-2.96	1.16
14	Q316#48		4	-2.95	0.01
15	Q324#56		4	-2.58	0.37
16	Q312#44		4	-2.50	0.09
17	Q320#52		4	-1.84	0.66
18	Q310#42		4	-1.67	0.17
19	Q326#58	Q33#35	16	-1.17	0.49
20	Q323#55		4	-1.17	0.01
21	Q311#43		4	-0.83	0.34
22	Q326#58	Q324#56	16	-0.22	0.61

以下省略

大手前女子学園（大手前女短大研集）「研究集録」第9号（1989年）

表28

CONTINGENCY TABLE WITH THE OPTIMAL COMBINATION OF EXPLANATORY VARIABLES

X(1):Q31#33

X(2):Q326#58

X — 2 —	RESPONSE VARIABLE				
	X(1)	1	2	3	4
1		4	5	0	0
2		14	37	8	2
3		9	111	66	9
4		4	18	26	16
TOTAL		31	171	100	27

X(1)	1	2	3	4
1	44.4	55.6	0.0	0.0
2	23.0	60.7	13.1	3.3
3	4.6	56.9	33.8	4.6
4	6.3	28.1	40.6	25.0
TOTAL	9.4	52.0	30.4	8.2

ば、着目変数がQ31「自分によく似合う服を上手に着こなしていると思うか」の場合の最適組合せは、Q326「人よりすぐ流行を取り入れる方と思うか」となっている。したがって、服装の着こなしにおいては約60%の者が合格点を与えているものの、流行のファッションに対しては、むしろ消極的な意識態度を示している。

ファッション誌や被服の専門誌を見る限り、昨今、女子大生（被験者）の被服行動は流行に敏感であるように見られていたが、今回の結果ではかなり自分の意志を尊重したファッションを試みていることがうかがえた。

Q33 成人式には振袖を着たいと思いますか。

着目変数をQ33（成人式には振袖）に対して32説明変数のA I C値を小さい順（情報量の多い）に並べかえたものが表29である。表29によれば、Q312「成人式には振袖よりも個性的な洋服を着たいと思うか」が最も関連度の強い項目であり、A I C値が-154.06となっている。これは着目変数に対する説明変数がきわめて類似的な質問項目であることから当然の結果と思われる。質問紙法による分析では相似たり、隣接する質問項目間の相関が高くなることはよく知られたことである。次いでQ322「お正月には着物を着たいと思うか」、Q32「慶弔の式には伝統的な民族衣裳である和服を着たいと思うか」といった和服の着装行動における項目間には強い相関が示されている。さらにみみると衣服の素材に対する選択（Q316）や衣服の着こなし（Q31）に関する項目も有意な変数として選択されている。一方、流行意識に対する項目（Q327, Q328, Q329, Q326）は、着目変数Q33に対して1変数では独立（関連がない）とみなされた項目である。いま、着目変数に対

性格調査との関連からみた本学学生の被服に対する意識と行動について（第2報）

表29

(説明変数)	カテゴリ—数	AIC値	AICの差	
1	Q312#44	4	-154.06	0.0
2	Q322#54	4	-61.54	92.53
3	Q32#34	4	-22.81	38.73
4	Q316#48	4	-1.56	21.25
5	Q313#45	4	-1.47	0.09
6	Q323#55	4	-0.23	1.24
7	Q31#33	4	-0.02	0.20
8	Q310#42	4	2.28	2.30
9	Q21#32	2	3.50	1.22
10	Q41#62	3	3.84	0.35
11	Q37#39	4	4.08	0.24
12	Q327#59	4	5.65	1.57
13	Q39#41	4	6.18	0.53
14	Q317#49	4	6.19	0.01
15	Q324#56	4	6.29	0.10
16	Q34#36	4	6.86	0.57
17	Q35#37	4	7.17	0.31
18	Q319#51	4	7.78	0.62
19	Q43#64	4	7.86	0.07
20	Q321#53	4	7.88	0.02
21	Q38#40	4	7.98	0.10
22	Q36#38	4	8.12	0.14
23	Q318#50	4	8.12	0.00
24	Q328#60	4	9.37	1.24
25	Q329#61	4	10.12	0.76
26	Q311#43	4	10.13	0.01
27	Q314#46	4	11.09	0.96
28	Q326#58	4	11.28	0.19
29	Q320#52	4	11.31	0.03
30	Q315#47	4	14.59	3.28
31	Q325#57	4	15.16	0.57
32	Q42#63	6	16.42	1.26

表30

(Q33#35)						(Q33#35)					
	1	2	3	4			1	2	3	4	TOTAL
(Q312#44)						(Q312#44)					
1	2	1	6	13	22	1	9.1	4.5	27.3	59.1	100.0
2	8	18	10	6	42	2	19.0	42.9	23.8	14.3	100.0
3	73	29	7	2	111	3	65.8	26.1	6.3	1.8	100.0
4	143	7	0	4	154	4	92.9	4.5	0.0	2.6	100.0
TOTAL	226	55	23	25	329	TOTAL	68.7	16.7	7.0	7.6	100.0
(Q316#48)						(Q316#48)					
1	30	7	3	7	47	1	63.8	14.9	6.4	14.9	100.0
2	92	18	10	13	133	2	69.2	13.5	7.5	9.8	100.0
3	83	27	4	5	119	3	69.7	22.7	3.4	4.2	100.0
4	21	3	6	0	30	4	70.0	10.0	20.0	0.0	100.0
TOTAL	226	55	23	25	329	TOTAL	68.7	16.7	7.0	7.6	100.0

して1変数で最適と選択されたQ312との分割表30について検討してみるとQ33「成人式に振袖を着たいと思うか」との項目については「そう思う」が226名（68.7%）と最も多く、「ややそう思う」55名（16.7%）と合わせれば、大部分の281名（85.4%）が成人式には振袖を着たいと思っている。次にQ312「成人式には振袖よりも個性的な洋服を着たいと思うか」を軸に見れば「そう思わない」が154名（46.8%）と多く、「ややそう思わない」者が111名（33.7%）と合わせると反対意見が265名（80.6%）となり非常に多くなる。これらを考え合わせてみれば、成人式には個性的な洋服よりも、昔ながらの振袖を着たいと望んでいる。次いで、Q33に対して関連のある項目Q316「素材は天然繊維を主に選ぶか」についても検討してみると（素材は天然繊維、例えば綿・絹・ウール等）、（素材は天然繊維以外のもの例えば、ナイロン・レーヨン・アクリル等）と両極端の回答したものはそれ

大手前女子学園（大手前女短大研集）「研究集録」第9号（1989年）

ぞれ47名、30名と案外少なく被験者の多くは「やや思う」、「やや思わない」という中間的意見を持っている者が多い（392名中252名（76.6%））。振袖の素材は、天然繊維に限られず、選好されていることがわかった。つづいて着目変数に対する2説明変数の組合せにおけるAIC値を表31に示す。表31によれば、「Q312×Q2学年差」の組合せが最も関連

表31

	(説明変数)		カテゴリー数	AIC値	AICの差
1	Q312#44	Q21#32	8	-128.43	0.0
2	Q312#44	Q322#54	16	-118.41	10.02
3	Q312#44	Q41#62	12	-116.74	1.68
4	Q312#44	Q32#34	16	-104.50	12.24
5	Q312#44	Q324#56	16	-96.93	7.56
6	Q312#44	Q310#42	16	-95.51	1.43
7	Q312#44	Q321#53	16	-95.20	0.30
8	Q312#44	Q313#45	16	-94.97	0.23
9	Q312#44	Q31#33	16	-94.05	0.92
10	Q312#44	Q37#39	16	-92.75	1.30
11	Q312#44	Q319#51	16	-92.52	0.23
12	Q312#44	Q317#49	16	-92.46	0.06
13	Q312#44	Q328#60	16	-92.40	0.05
14	Q312#44	Q34#36	16	-92.04	0.36
15	Q312#44	Q311#43	16	-91.75	0.30
16	Q312#44	Q320#52	16	-91.67	0.08
17	Q312#44	Q329#61	16	-91.08	0.59
18	Q312#44	Q323#55	16	-90.34	0.74
19	Q312#44	Q327#59	16	-90.25	0.10
20	Q312#44	Q39#41	16	-89.83	0.42
21	Q312#44	Q326#58	16	-89.45	0.38
22	Q312#44	Q35#37	16	-89.32	0.13
23	Q312#44	Q38#40	16	-87.56	1.75
24	Q312#44	Q318#50	16	-84.08	3.48
25	Q312#44	Q316#48	16	-83.44	0.65
26	Q312#44	Q325#57	16	-82.88	0.56
27	Q312#44	Q315#47	16	-81.98	0.90
28	Q312#44	Q36#38	16	-77.99	3.99
29	Q312#44	Q43#64	16	-76.73	1.26
30	Q312#44	Q314#46	16	-70.87	5.86
31	Q312#44	Q42#63	24	-33.69	37.18
32	Q21#32	Q41#62	6	9.99	43.68

度が大きく、つぎに「Q312×Q322」、「Q312×Q41（スタイル嗜好度）」……「Q312×Q42」となっている。32説明変数中「Q2×Q41」の組合せだけが“独立”と判断される説明変数である。

また、Q33に対して流行意識に対する項目は単独（2次元分割表レベル）とみなされた項目であるが、2説明変数（3次元分割表レベル）では有効な変数組として選択されており、和服着装行動と無関係であるということは断定出来ないことが明らかになった。

Q312をキーとする組合せが、Q33に対して関連度の強いことが証明される。さらにCATDAPでは着目変数に説明変数との最適組合せを算出する。その最適組合せの分割表を表32に示す。この結果、着目変数がQ33「成人式には振袖を着たいと思うか」の場合の最適組合せは、Q312「成人式には振袖よりも個性的な洋服を着たいと思うか」となっている。したがって、成人式には85%の者が振袖を着装したいと望んでいる反面、個性的な洋服を着たいと思っている者は少ない。振袖は未婚女性の第一礼装であり、着用年齢期間

性格調査との関連からみた本学学生の被服に対する意識と行動について（第2報）

も限られているので唯一の機会である成人式には個性的な洋服よりも振袖を着たいという女性心のあらわれが分析結果でも明確にあらわれている。

表32

CONTINGENCY TABLE WITH THE OPTIMAL COMBINATION OF EXPLANATORY VARIABLES

X(1):Q33#35 X(2):Q312#44

X — 2 —	RESPONSE VARIABLE				
	X(1)	1	2	3	4
1	2	1	6	13	22
2	8	18	10	6	42
3	73	29	7	2	111
4	143	7	0	4	154
TOTAL	226	55	23	25	329

X(1)	1	2	3	4
1	9.1	4.5	27.3	59.1
2	19.0	42.9	23.8	14.3
3	65.8	26.1	6.3	1.8
4	92.9	4.5	0.0	2.6
TOTAL	68.7	16.7	7.0	7.6

Q 36 あなたは有名ブランドの服を着たいと思いますか。

表33は着目変数Q 36（有名ブランドの服の着用）に対する説明変数のA I C値を示した

表33

	(説明変数)	カテゴリー数	AIC値	AICの差
1	Q315#47	4	-32.93	0.0
2	Q329#61	4	-30.12	2.81
3	Q327#59	4	-24.27	5.85
4	Q326#53	4	-20.77	3.49
5	Q321#53	4	-19.57	1.20
6	Q311#43	4	-10.71	8.86
7	Q325#57	4	-5.67	5.04
8	Q322#54	4	-5.65	0.02
9	Q319#51	4	-4.22	1.43
10	Q323#55	4	-2.95	1.26
11	Q310#42	4	-2.49	0.47
12	Q316#48	4	-1.50	0.99
13	Q318#50	4	-0.29	1.21
14	Q312#44	4	0.20	0.49
15	Q34#36	4	0.43	0.22
16	Q32#34	4	0.48	0.05
17	Q21#32	2	1.08	0.60
18	Q328#60	4	1.17	0.09
19	Q35#37	4	2.71	1.54
20	Q320#52	4	2.95	0.25
21	Q324#56	4	3.16	0.21
22	Q38#40	4	3.61	0.45
23	Q317#49	4	6.90	3.29
24	Q314#46	4	7.25	0.36
25	Q33#35	4	8.12	0.87
26	Q39#41	4	8.14	0.02
27	Q43#64	4	9.37	1.22
28	Q41#62	3	10.51	1.15
29	Q31#33	4	11.72	1.21
30	Q313#45	4	12.30	0.58
31	Q37#39	4	12.72	0.41
32	Q42#63	6	13.26	0.54

ものである。この結果、Q 315「ブランド商品の方が高価と思うか」が最も有効な項目として選択され、次いでQ 329「流行は追わない方であると思うか」、Q 327「流行に遅れないようにする方であると思うか」Q 326「流行は人よりすぐに取り入れる方であると思うか」といった流行意識に関する項目とブランド製品に関する設問間に強い相関が示されている。さらに衣服の素材に対する選択態度（Q 323、Q 316等）に関する項目も有意な変数として選択されている。一方、Q 312（成人式には振袖よりも個性的な洋服の着用）以降の説明変数、つまり、Q 313（夏祭には浴衣の着用）、Q 31（似合う服の着こなし）、Q 37（T P O）といった項目は着目変数Q 36に対して独立（関連がない）という結果を得た。

これらの結果から「有名ブランドの服を着たいと思うか」の設問に対して流行や高級志向および衣服素材の選択という選択肢に強い反応が示されたのに対してどちらかという伝統行事的な色彩を含む、日常の服装選択行動に関する項目に有意差が認められなかった点から考えて、被験者が着目変数の設問に対して、「流行・ブランド商品・衣服材料」と「伝統行事・儀式的衣服着用行動」とは別次元であるという意思を示したものであることが、分析結果からうかがえる。以上のような着目変数に対する32組の分割表比較と意識反応を基に分割表（表34）について検討してみると、「ブランドの服を着てみたい（ややそう思

表34

(Q36#38)						(Q36#38)					
	1	2	3	4		1	2	3	4	TOTAL	
(Q315#47)						(Q315#47)					
1	36	37	10	11	94	1	38.3	39.4	10.6	11.7 100.0 94	
2	36	65	24	6	131	2	27.5	49.6	18.3	4.6 100.0 131	
3	11	33	5	7	56	3	19.6	58.9	8.9	12.5 100.0 56	
4	4	14	12	18	48	4	8.3	29.2	25.0	37.5 100.0 48	
TOTAL	87	149	51	42	329	TOTAL	26.4	45.3	15.5	12.8 100.0 329	

うを含む）」と回答した者は、全体の72%を占め関心が高いが「ブランド商品は高価」と思う比率とはほぼ等しく、ブランド商品を着てみたいが、高価なのでという被験者のため息が聞こえて来そうである。反面、特にブランド商品の服を着てみたいとも思わないし、高価だと考えていないブランド服に無関心グループも20%近くいる。また、Q 36に対して被験者の学年差間（1年生、2年生）は単独（2次元分割表レベル）では意識差はないという結果（表33参照）であったが、Q 315（ブランド商品の方が高価）、Q 327（流行に遅れない）の設問項目と組合せた分割表（3次元分割表レベル）ではA I C値が、それぞれ-23.46、-9.53となり、有意な変数の組として選択されている。このことは実質科学上では重要なことでたとえ単独では独立と判定された因果関係でも多次元レベルでの分析で重要な有意変数として選択される例を示すものである。表35（カテゴリーの説明は表5を参照）に「Q 36×Q 2×Q 327」の3次元分割表の一部を示した。「ブランドの服を着てみたい」と回答した者（Q 36のカテゴリー1）87名に着目して考察すると、2年生が52名（60%）で1年生は35名（40%）である。これをQ 315（ブランド商品）との関連で検討して見る

性格調査との関連からみた本学学生の被服に対する意識と行動について (第2報)

表35

TABLE 1 OF Q21 BY Q327
CONTROLLING FOR Q36=1

Q2	Q327				
FREQUENCY!					
PERCENT !					
ROW PCT !					
COL PCT !	1!	2!	3!	4!	TOTAL
1	4	20	9	2	35
	4.60	22.99	10.34	2.30	40.23
	11.43	57.14	25.71	5.71	
	50.00	43.48	33.33	33.33	
2	4	26	18	4	52
	4.60	29.89	20.69	4.60	59.77
	7.69	50.00	34.62	7.69	
	50.00	56.52	66.67	66.67	
TOTAL	8	46	27	6	87
	9.20	52.87	31.03	6.90	100.00

TABLE 2 OF Q21 BY Q327
CONTROLLING FOR Q36=2

Q2	Q327				
FREQUENCY!					
PERCENT !					
ROW PCT !					
COL PCT !	1!	2!	3!	4!	TOTAL
1	1	39	28	11	79
	0.67	26.17	18.79	7.38	53.02
	1.27	49.37	35.44	13.92	
	50.00	56.52	49.12	52.38	
2	1	30	29	10	70
	0.67	20.13	19.46	6.71	46.98
	1.43	42.86	41.43	14.29	
	50.00	43.48	50.88	47.62	
TOTAL	2	69	57	21	149
	1.34	46.31	38.26	14.09	100.00

TABLE 3 OF Q21 BY Q327
CONTROLLING FOR Q36=3

Q2	Q327				
FREQUENCY!					
PERCENT !					
ROW PCT !					
COL PCT !	1!	2!	3!	4!	TOTAL
1	1	9	14	3	27
	1.96	17.65	27.45	5.88	52.94
	3.70	33.33	51.85	11.11	
	100.00	52.94	63.64	27.27	
2	0	8	8	8	24
	0.00	15.69	15.69	15.69	47.06
	0.00	33.33	33.33	33.33	
	0.00	47.06	36.36	72.73	
TOTAL	1	17	22	11	51
	1.96	33.33	43.14	21.57	100.00

TABLE 4 OF Q21 BY Q327
CONTROLLING FOR Q36=4

Q2	Q327				
FREQUENCY!					
PERCENT !					
ROW PCT !					
COL PCT !	1!	2!	3!	4!	TOTAL
1	0	7	6	11	24
	0.00	16.67	14.29	26.19	57.14
	0.00	29.17	25.00	45.83	
		63.64	54.55	55.00	
2	0	4	5	9	18
	0.00	9.52	11.90	21.43	42.86
	0.00	22.22	27.78	50.00	
		36.36	45.45	45.00	
TOTAL	0	11	11	20	42
	0.00	26.19	26.19	47.62	100.00

TABLE 1 OF Q21 BY Q315
CONTROLLING FOR Q36=1

Q2	Q315				
FREQUENCY!					
PERCENT !					
ROW PCT !					
COL PCT !	1!	2!	3!	4!	TOTAL
1	13	14	5	3	35
	14.94	16.09	5.75	3.45	40.23
	37.14	40.00	14.29	8.57	
	36.11	38.89	45.45	75.00	
2	23	22	6	1	52
	26.44	25.29	6.90	1.15	59.77
	44.23	42.31	11.54	1.92	
	63.89	61.11	54.55	25.00	
TOTAL	36	36	11	4	87
	41.38	41.38	12.64	4.60	100.00

TABLE 2 OF Q21 BY Q315
CONTROLLING FOR Q36=2

Q2	Q315				
FREQUENCY!					
PERCENT !					
ROW PCT !					
COL PCT !	1!	2!	3!	4!	TOTAL
1	22	38	14	5	79
	14.77	25.50	9.40	3.36	53.02
	27.85	48.10	17.72	6.33	
	59.46	58.46	42.42	35.71	
2	15	27	19	9	70
	10.07	18.12	12.75	6.04	46.98
	21.43	38.57	27.14	12.86	
	40.54	41.54	57.58	64.29	
TOTAL	37	65	33	14	149
	24.83	43.62	22.15	9.40	100.00

TABLE 3 OF Q21 BY Q315
CONTROLLING FOR Q36=3

Q2	Q315				
FREQUENCY!					
PERCENT !					
ROW PCT !					
COL PCT !	1!	2!	3!	4!	TOTAL
1	7	11	3	6	27
	13.73	21.57	5.88	11.76	52.94
	25.93	40.74	11.11	22.22	
	70.00	45.83	60.00	50.00	
2	3	13	2	6	24
	5.88	25.49	3.92	11.76	47.06
	12.50	54.17	8.33	25.00	
	30.00	54.17	40.00	50.00	
TOTAL	10	24	5	12	51
	19.61	47.06	9.80	23.53	100.00

TABLE 4 OF Q21 BY Q315
CONTROLLING FOR Q36=4

Q2	Q315				
FREQUENCY!					
PERCENT !					
ROW PCT !					
COL PCT !	1!	2!	3!	4!	TOTAL
1	5	3	4	12	24
	11.90	7.14	9.52	28.57	57.14
	20.83	12.50	16.67	50.00	
	45.45	50.00	57.14	66.67	
2	6	3	3	6	18
	14.29	7.14	7.14	14.29	42.86
	33.33	16.67	16.67	33.33	
	54.55	50.00	42.86	33.33	
TOTAL	11	6	7	18	42
	26.19	14.29	16.67	42.86	100.00

大手前女子学園（大手前女短大研集）「研究集録」第9号（1989年）

と「ブランド服が高価（やや…も含む）」と回答した者は2年生の57.7%に対し、1年生では68.5%と高く、逆に「高価と思わない（ややも含む）」比率は1年生の31%に対し、2年生は42.3%である。「ブランド服を着てみたい」と回答したもので「ブランド服の高価観」との対応で見るとこのように学年間で微妙に異なっていることがこの結果からうかがえる。現実的に2年生は一流ブランドに対しての知識や関心度の高さが、1年生との学年差になってあらわれたのではなかろうか。

次にQ36の有名ブランドの服を着たくない（カテゴリー4）という回答をした者は、42名のうち57%は1年生であり、Q327（流行意識に遅れないようにするか）との関連で見ると42中31名の者（73.8%）が「そうは思わない」と回答しており、被験者ではブランド商品に積極的に順応し、関心の高い層がある反面、流行やブランド商品に関心の低い層があり、学年間でもその意識に相違があることが分析から明らかになった。

Q37 あなたはT P Oに合わせて適切な衣服を選んでいると思いますか。

表36は着目変数Q37「T P Oに合わせて適切な衣服を選んでいると思うか」に対する説明変数のA I C値を示したものである。まず、Q37の設問は「T P Oに合わせて適切な衣服を選んでいると思うか」という被験者に自己意識を採点に課している質問である。被験者群では「そう思う（80名）」24.4%、「ややそう思う（199名）」60.5%、「ややそう思わない（43名）」13.1%、「そう思わない（7名）」2.1%という回答比率を見ると、T P Oを

表36

	(説明変数)	カテゴリー数	AIC値	AICの差
1	Q31#33	4	-20.31	0.0
2	Q311#43	4	-16.63	3.67
3	Q320#52	4	-15.82	0.82
4	Q310#42	4	-11.79	4.02
5	Q38#40	4	-4.72	7.07
6	Q326#58	4	-4.19	0.53
7	Q312#44	4	-3.46	0.73
8	Q21#32	2	-3.36	0.10
9	Q318#50	4	-3.13	0.23
10	Q321#53	4	-2.12	1.02
11	Q41#62	3	-0.08	2.04
12	Q315#47	4	0.93	1.01
13	Q35#37	4	1.11	0.18
14	Q319#51	4	1.89	0.78
15	Q325#57	4	2.40	0.50
16	Q327#59	4	3.24	0.84
17	Q39#41	4	3.90	0.65
18	Q33#35	4	4.08	0.18
19	Q316#48	4	4.85	0.77
20	Q322#54	4	5.29	0.45
21	Q329#61	4	6.61	1.31
22	Q328#60	4	6.69	0.08
23	Q313#45	4	6.73	0.04
24	Q324#56	4	7.38	0.66
25	Q34#36	4	7.76	0.37
26	Q32#34	4	9.87	2.12
27	Q323#55	4	10.80	0.92
28	Q317#49	4	11.20	0.40
29	Q314#46	4	11.35	0.15
30	Q36#38	4	12.72	1.37
31	Q43#64	4	14.78	2.06
32	Q42#63	6	21.88	7.10

性格調査との関連からみた本学学生の被服に対する意識と行動について（第2報）

考慮した衣服の選択を多くの者が実行していることがわかった。表によれば、最も Q37 の着目変数に対して関連性の強い説明変数は Q31 「似合う服を上手に着こなしていると思うか」であり、次いで Q311 「女性の目を意識して衣服を着ていると思うか」、Q320 「服装は自己表現の有力な手段であると思うか」、Q310 「男性の目を意識して衣服を着ていると思うか」、Q38 「洗たくしやすい素材を選んでいると思うか」となっている。さらに流行意識に関する項目（Q326）やスタイルの嗜好度（Q41）に関する項目も有意な変数として選択されている。一方、和服の着装行動に関する項目（Q33、Q322、Q32、Q313）については Q37（TPO）に対して無関連（統計的に言う“独立”）という結果が得られた。

Q37 に対して関連度の強い順に分割表 37 について検討してみると、Q31（着こなしの選択）では肯定グループが 61.4%（202 名）、否定グループは 38.6%（127 名）である。着こなし選択行動に対しては約 60% の者が積極的な態度であり Q37 の回答パターンと強い正の相関関係を示している。次いで Q311（女性の目を意識して衣服の着用）では肯定グループ 71.3%（236 名）で被験者群は、同性の目を意識しながら衣服を着用していることがわかる。第 3 位に選択された Q320（服装は自己表現の有力な手段）では肯定グループ 84.2%（277 名）で圧倒的に多くの者が服装による自己表現を重視していることがうかがえる。さらに 4 位に選ばれた Q310（男性の目を意識して衣服の着用）について検討すれば、「男性の目の意識の肯定」、「男性の目の意識の否定」という中間的な意見を持っている者が 329 名中 269 名（81.8%）となっている。この項目については意見が二分化されている。こ

表 37

(Q37#39)					(Q37#39)					
	1	2	3	4		1	2	3	4	TOTAL
(Q31#33)					(Q31#33)					
1	16	14	1	0	31	51.6	45.2	3.2	0.0	100.0
2	52	99	16	4	171	30.4	57.9	9.4	2.3	100.0
3	9	70	19	2	100	9.0	70.0	19.0	2.0	100.0
4	3	16	7	1	27	11.1	59.3	25.9	3.7	100.0
TOTAL	80	199	43	7	329	24.3	60.5	13.1	2.1	100.0
(Q311#43)					(Q311#43)					
1	25	31	0	2	58	43.1	53.4	0.0	3.4	100.0
2	38	112	25	3	178	21.3	62.9	14.0	1.7	100.0
3	10	49	14	0	73	13.7	67.1	19.2	0.0	100.0
4	7	7	4	2	20	35.0	35.0	20.0	10.0	100.0
TOTAL	80	199	43	7	329	24.3	60.5	13.1	2.1	100.0
(Q320#52)					(Q320#52)					
1	44	56	15	3	118	37.3	47.5	12.7	2.5	100.0
2	34	103	21	1	159	21.4	64.8	13.2	0.6	100.0
3	1	33	6	2	42	2.4	78.6	14.3	4.8	100.0
4	1	7	1	1	10	10.0	70.0	10.0	10.0	100.0
TOTAL	80	199	43	7	329	24.3	60.5	13.1	2.1	100.0
(Q310#42)					(Q310#42)					
1	18	13	0	0	31	58.1	41.9	0.0	0.0	100.0
2	35	97	23	1	156	22.4	62.2	14.7	0.6	100.0
3	17	75	16	5	113	15.0	66.4	14.2	4.4	100.0
4	10	14	4	1	29	34.5	48.3	13.8	3.4	100.0
TOTAL	80	199	43	7	329	24.3	60.5	13.1	2.1	100.0

これらの結果から「T P Oに合わせて適切な衣服……」の設問に対して被服の着こなしや選択行動における項目、さらに、服装による自己表現の意識行動に関する項目には重視しな

表38

(説明変数)			カテゴリー数	AIC値	AICの差
1	Q31#33	Q2#32	8	-8.69	0.0
2	Q31#33	Q321#53	16	4.55	13.23
3	Q31#33	Q320#52	16	7.02	2.47
4	Q2#32	Q41#62	6	8.37	1.35
5	Q31#33	Q41#62	12	11.82	3.45
6	Q31#33	Q311#43	16	15.10	3.28
7	Q31#33	Q38#40	16	17.42	2.33
8	Q31#33	Q310#42	16	18.19	0.77

以下省略

がらも、異性の目よりもむしろ同性の目を意識しているという選択肢に強い反応を示されている。つづいて説明変数の組合せ2説明変数を増加させた結果を表38に示す。表によれば、32説明変数の中では「Q31×Q2」の組合せのみが関連があるという結果になった。さらにCATDAPでは着目変数に説明変数との最適組合せを算出する。その最適組合せの分割表を表39に示す。この結果、着目変数がQ37「T P Oに合わせて適切な衣服の選択」とQ31「似合う服を着こなしをしていると思うか」になっている。したがってT P Oに合わせて適切な衣服の選択では、被験者全体の85%にもものほる多くの者が自身に対して合格点を与えている。次いでT P Oに対して積極的な者で服装の着こなしを重視するという者が約60%いたが、この関連性についても首肯しうる結果である。

表39

CONTINGENCY TABLE WITH THE OPTIMAL COMBINATION OF EXPLANATORY VARIABLES
X(1):Q37#39 X(2):Q31#33

X 2 -	RESPONSE VARIABLE				
	X(1)				
	1	2	3	4	
1	16	14	1	0	31
2	52	99	16	4	171
3	9	70	19	2	100
4	3	16	7	1	27
TOTAL	80	199	43	7	329

X 2 -	RESPONSE VARIABLE				
	X(1)				
	1	2	3	4	
1	51.6	45.2	3.2	0.0	100.0
2	30.4	57.9	9.4	2.3	100.0
3	9.0	70.0	19.0	2.0	100.0
4	11.1	59.3	25.9	3.7	100.0
TOTAL	24.3	60.5	13.1	2.1	100.0

性格調査との関連からみた本学学生の被服に対する意識と行動について（第2報）

Q318 あなたは服装によって性的魅力を発揮出来ると思いますか。

着目変数をQ318（服装によって性的魅力が発揮出来るか）に対して32説明変数のA I

表40

	(説明変数)	カテゴリ数	AIC値	AICの差
1	Q320#52	4	-41.97	0.0
2	Q321#53	4	-25.83	16.14
3	Q310#42	4	-25.66	0.18
4	Q326#58	4	-16.64	9.02
5	Q311#43	4	-16.26	0.38
6	Q319#51	4	-14.74	1.52
7	Q32#34	4	-13.84	0.90
8	Q35#37	4	-12.83	1.01
9	Q31#33	4	-12.69	0.15
10	Q317#49	4	-12.32	0.37
11	Q323#55	4	-7.85	4.47
12	Q328#60	4	-7.32	0.52
13	Q324#56	4	-6.10	1.22
14	Q312#44	4	-4.60	1.50
15	Q37#39	4	-3.13	1.47
16	Q314#46	4	-1.92	1.22
17	Q315#47	4	-1.19	0.73
18	Q38#40	4	-0.85	0.34
19	Q325#57	4	-0.76	0.09
20	Q36#38	4	-0.29	0.47
21	Q316#48	4	0.21	0.50
22	Q327#59	4	3.97	3.75
23	Q2#32	2	5.20	1.24
24	Q313#45	4	5.44	0.24
25	Q322#54	4	5.88	0.44
26	Q329#61	4	7.60	1.72
27	Q33#35	4	8.12	0.52
28	Q43#64	4	8.84	0.71
29	Q41#62	3	9.00	0.16
30	Q34#36	4	9.38	0.38
31	Q39#41	4	16.31	6.92
32	Q42#63	6	19.43	3.12

Cの値を小さい順（情報量の多い）に並べかえたものが表40である。表40によれば、最もQ318に対して関連性の強い説明変数はQ320「服装は自己表現の有力な手段であると思うか」であり、次いでQ321「華やかな服装が好きな方であると思うか」、Q310「男性の目を意識して衣服を着ていると思うか」、Q326「人よりすぐに流行を取り入れると思うか」……Q36「有名ブランドの服を着たいと思うか」と続いている。32変数中Q320からQ36の20変数がA I C値の－（マイナス）値を取っており、関連性のある説明変数群となっている。一方、Q316（素材の選択）以降の説明変数、つまりQ313（夏祭には浴衣の着装）、Q322（お正月には着物の着装）、Q33（成人式には振袖の着装）、Q43（振袖の選択理由）、Q42（振袖の選択）といった和服に対する着装行動に関する項目は、着目変数Q318に対して独立（関連性がない）という結果を得た。Q318に対して関連度の強い順に分割表41について検討してみる。ここでカテゴリーを肯定グループ（そう思う、ややそう思う）と否定グループ（ややそう思わない、そう思わない）として表わし、特記すべき事項の検討を行う。Q320（服装は自己表現の有力な手段）は肯定グループが277人（84.2%）で圧倒的に多くの者が服装は自分らしさを表現出来る有力な手段であると回答しており、Q318と強い正の相関関係も示している。次のQ321（華やかな服装の選択）に対して見ると、

大手前女子学園（大手前女短大研集）「研究集録」第9号（1989年）

表41

(Q318#50)						(Q318#50)					
	1	2	3	4			1	2	3	4	TOTAL
(Q320#52)						(Q320#52)					
1	28	34	29	27	118	1	23.7	28.8	24.6	22.9	100.0
2	16	73	51	19	159	2	10.1	45.9	32.1	11.9	100.0
3	1	8	23	10	42	3	2.4	19.0	54.8	23.8	100.0
4	1	0	0	9	10	4	10.0	0.0	0.0	90.0	100.0
TOTAL	46	115	103	65	329	TOTAL	14.0	35.0	31.3	19.8	100.0
	1	2	3	4			1	2	3	4	TOTAL
(Q321#53)						(Q321#53)					
1	15	29	13	3	60	1	25.0	48.3	21.7	5.0	100.0
2	12	44	42	14	112	2	10.7	39.3	37.5	12.5	100.0
3	15	36	42	32	125	3	12.0	28.8	33.6	25.6	100.0
4	4	6	6	16	32	4	12.5	18.8	18.8	50.0	100.0
TOTAL	46	115	103	65	329	TOTAL	14.0	35.0	31.3	19.8	100.0
	1	2	3	4			1	2	3	4	TOTAL
(Q310#42)						(Q310#42)					
1	13	6	7	5	31	1	41.9	19.4	22.6	16.1	100.0
2	22	68	49	17	156	2	14.1	43.6	31.4	10.9	100.0
3	9	31	42	31	113	3	8.0	27.4	37.2	27.4	100.0
4	2	10	5	12	29	4	6.9	34.5	17.2	41.4	100.0
TOTAL	46	115	103	65	329	TOTAL	14.0	35.0	31.3	19.8	100.0
	1	2	3	4			1	2	3	4	TOTAL
(Q326#58)						(Q326#58)					
1	4	3	1	1	9	1	44.4	33.3	11.1	11.1	100.0
2	10	27	21	3	61	2	16.4	44.3	34.4	4.9	100.0
3	24	67	69	35	195	3	12.3	34.4	35.4	17.9	100.0
4	8	18	12	26	64	4	12.5	28.1	18.8	40.6	100.0
TOTAL	46	115	103	65	329	TOTAL	14.0	35.0	31.3	19.8	100.0

「華やかな服が好き（ややも含む）」、「華やかな服が嫌い（ややも含む）」と両極端の回答した者はそれぞれ172名（52.3%）、157名（47.7%）となっている。この設問に対しては価値意識が二分化されていることが指摘できる。次に3位に選択されたQ310（男性の目を意識して衣服の着用）について検討すれば、「男性の目を意識の肯定」、「男性の目を意識の否定」との両極端の回答者はそれぞれ31名、29名と少なく被験者の多くは「ややそう思う」「ややそう思わない」という中間的な意見を持っている者が329名中269名（81.8%）となっている。この項目については意見が二分化されている。さらに4位に選ばれた、Q318に対する説明変数Q326（流行はすぐ取り入れる）との分割表について、Q326（流行をすぐに取り入れるか）は肯定グループが70名（21.3%）で流行に対して消極的な態度がうかがえる。つぎにCATDAPはさらに着目変数に対して2説明変数の組合せにおけるAIC値を表42に示す。これによれば、「Q320×Q2」の組合せが関連度が大きく、次いで「Q2×Q321」、「Q320×Q321」の組合せが続く。ここで注目したいことは、Q2（学年差）の変数がQ320やQ321との組合せされるとそれぞれのAIC値は-16.3、-15.13となり、Q318に対して有意な説明グループに入ってくることである。さらにCATDAPでは着目変数に説明変数との最適組合せを算出する。その最適組合せの「Q318×Q320」の分割表を表43に示す。表によれば、服装によって性的魅力が発揮できるか否かの設問では、161人の者が肯定し、168人（51.1%）の者が否定と回答した。この項目については意

性格調査との関連からみた本学学生の被服に対する意識と行動について（第2報）

表42

(説明変数)			カテゴリ数	AIC値	AICの差
1	Q320#52	Q2#32	8	-16.03	0.0
2	Q2#32	Q321#53	8	-15.13	0.90
3	Q320#52	Q321#53	16	-11.21	3.92
4	Q320#52	Q310#42	16	-8.96	2.26
5	Q320#52	Q326#58	16	-0.84	8.12
6	Q320#52	Q317#49	16	0.80	1.64
7	Q320#52	Q32#34	16	1.33	0.53
8	Q320#52	Q323#55	16	3.76	2.42

以下省略

見が二分化されている。つぎに服装は自己表現の有力な手段であると約85%の者が思っている。服装によって性的魅力が発揮できないという否定的なグループが多いことがわかった。西洋被服文化史¹²⁾概説によれば『被服が女性の性的魅力を引き出す重要なウエイトを占める』という論述（取意）があるが、本調査における分析結果については必ずしもその傾向はみられなかった。

表43

CONTINGENCY TABLE WITH THE OPTIMAL COMBINATION OF EXPLANATORY VARIABLES
X(1):Q318#50 X(2):Q320#52

X	RESPONSE VARIABLE					
-						
2						
-						
	X(1)	1	2	3	4	
1		28	34	29	27	118
2		16	73	51	19	159
3		1	8	23	10	42
4		1	0	0	9	10
TOTAL		46	115	103	65	329

	X(1)	1	2	3	4	
1		23.7	28.8	24.6	22.9	100.0
2		10.1	45.9	32.1	11.9	100.0
3		2.4	19.0	54.8	23.8	100.0
4		10.0	0.0	0.0	90.0	100.0
TOTAL		14.0	35.0	31.3	19.8	100.0

Q 322 あなたはお正月には着物を着たいと思いますか。

表44は着目変数Q 322（お正月に着物の着装）に対する説明変数のA I C値を示したものである。表44によれば、Q 313「夏祭には浴衣を着たいと思うか」が最も有効な項目として選択され、次いでQ 33「成人式には振袖を着たいと思うか」、Q 32「慶弔の式には伝統的な民族衣裳である和服を着たいと思うか」、Q 312「成人式には振袖より個性的な洋服を着たいと思うか」といった和服の着装行動における項目間には、強い相関が示されている。またQ 36（有名ブランドの服）やQ 321（華やかな服が好き）に関する項目にも有意

大手前女子学園（大手前女短大研集）「研究集録」第9号（1989年）

表44

(説明変数)		カテゴリー数	AIC値	AICの差
1	Q313#45	4	-82.47	0.0
2	Q33#35	4	-61.54	20.93
3	Q32#34	4	-47.82	13.71
4	Q312#44	4	-36.72	11.11
5	Q36#38	4	-5.65	31.07
6	Q324#56	4	-4.96	0.69
7	Q310#42	4	-3.64	1.31
8	Q321#53	4	-1.76	1.88
9	Q323#55	4	-0.90	0.86
10	Q326#58	4	0.11	1.01
11	Q34#36	4	0.46	0.35
12	Q21#32	2	2.50	2.03
13	Q328#60	4	2.70	0.20
14	Q315#47	4	3.13	0.43
15	Q329#61	4	4.11	0.98
16	Q316#48	4	4.55	0.44
17	Q37#39	4	5.29	0.74
18	Q325#57	4	5.49	0.20
19	Q318#50	4	5.88	0.39
20	Q43#64	4	5.88	0.00
21	Q320#52	4	6.17	0.28
22	Q311#43	4	7.29	1.12
23	Q35#37	4	7.47	0.18
24	Q41#62	3	7.55	0.08
25	Q327#59	4	7.91	0.36
26	Q319#51	4	10.17	2.26
27	Q39#41	4	11.65	1.47
28	Q31#33	4	12.65	1.01
29	Q314#46	4	12.76	0.11
30	Q38#40	4	12.99	0.23
31	Q317#49	4	15.18	2.18
32	Q42#63	6	18.25	3.07

差が認められた。なお、Q326（流行をすぐに取り入れられるか）以降Q328（流行より経済性）、Q329（流行は追わない）といった項目は、着目変数Q322に対して1変数では独立（関連がない）とみなされた項目である。いま、着目変数に対して1変数で最適と選択されたQ313との分割表(表45)について検討して見ると「お正月に着物を着たいと思う」者は

表45

(Q322#54)					(Q322#54)				
	1	2	3	4		1	2	3	4
(Q313#45)					(Q313#45)				
1	120	37	16	12	185	1	64.9	20.0	8.6
2	20	43	19	10	92	2	21.7	46.7	20.7
3	2	10	13	5	30	3	6.7	33.3	43.3
4	3	6	3	10	22	4	13.6	27.3	13.6
TOTAL	145	96	51	37	329	TOTAL	44.1	29.2	15.5
	1	2	3	4		1	2	3	4
(Q312#44)					(Q312#44)				
1	3	2	6	11	22	1	13.6	9.1	27.3
2	10	15	7	10	42	2	23.8	35.7	16.7
3	48	34	23	6	111	3	43.2	30.6	20.7
4	84	45	15	10	154	4	54.5	29.2	9.7
TOTAL	145	96	51	37	329	TOTAL	44.1	29.2	15.5
	1	2	3	4		1	2	3	4
(Q329#61)					(Q329#61)				
1	20	9	6	11	46	1	43.5	19.6	13.0
2	43	34	14	11	102	2	42.2	33.3	13.7
3	66	44	29	11	150	3	44.0	29.3	19.3
4	16	9	2	4	31	4	51.6	29.0	6.5
TOTAL	145	96	51	37	329	TOTAL	44.1	29.2	15.5

性格調査との関連からみた本学学生の被服に対する意識と行動について（第2報）

145名、やや着たい者96名を含めると241名で全体の73.3%の者がお正月に着物を着たいと思っている。しかし、「夏祭に浴衣を着たい（ややも含む）」者は277名（84.2%）と「お正月に着物を着たい」者よりも多い。「お正月に着物を着たい」と思う者145名のうち120名は「夏祭には浴衣を着たい」と回答し、「お正月に着物を着たい」と答えたもので「夏祭に浴衣を着たくない（ややも含む）」と反応した者は、わずか5名である。浴衣は礼装の着物に比べて、手軽に着装出来るという点で支持されていると見るべきであろう。これはQ322（お正月には着物）で「そう思わない（ややも含む）」と回答したものは88名に対して、夏祭に浴衣は52名という結果を見ても明らかである。さらにQ312（成人式には振袖よりも個性的な洋服を着たいと思うか）に対して分割表で検討してみると、Q312は肯定グループが64人（19.5%）と少なく、否定グループは265人（80.5%）と圧倒的に多い。これは、成人式には個性的な洋服を着るよりも、あくまでも振袖を着たいと望んでいることがわかった。次にQ322に対して独立と見なされたQ329「流行を追わない方であると思うか」についても検討して見ると（積極的に流行を追う）、（流行を追わない）と両極端の回答した者はそれぞれ31名、46名と案外少なく被験者の多くは「やや思う」、「やや思わない」という中間的な意見を持っている者が329名中252名（76.6%）である。この中間的意見を持った者が「正月に和服を着たいと思う」の平均的比率、つまり「着たい44.1%、やや着たいと思う29.2%、やや思わない15.5%、着たくない11.2%」と同傾向であることが独立と見なされた原因と考えられる。しかし、流行を追う又は追わない両極端の比率を見るとわずかに「正月に着たい者で流行を追う」グループの比率が51.6%に対し、「着たい

表46

(説明変数)			カテゴリー数	AIC値	AICの差
1	Q313#45	Q33#35	16	-97.61	0.0
2	Q313#45	Q312#44	16	-75.08	22.53
3	Q313#45	Q2#32	8	-68.78	6.30
	Q313#45	Q32#34	16	-60.70	8.09
5	Q33#35	Q2#32	8	-47.02	13.67
6	Q313#45	Q315#47	16	-46.38	0.65
7	Q313#45	Q41#62	12	-43.36	3.01
8	Q313#45	Q36#38	16	-41.07	2.29
9	Q313#45	Q324#56	16	-40.96	0.11
10	Q313#45	Q318#50	16	-40.32	0.64
11	Q313#45	Q34#36	16	-40.22	0.10
12	Q313#45	Q329#61	16	-40.10	0.12
13	Q313#45	Q323#55	16	-39.31	0.79
14	Q313#45	Q37#39	16	-38.45	0.86
15	Q313#45	Q35#37	16	-36.74	1.71
16	Q313#45	Q321#53	16	-36.14	0.60
17	Q313#45	Q325#57	16	-36.14	0.00
18	Q313#45	Q326#58	16	-32.89	3.25
19	Q313#45	Q316#48	16	-31.95	0.94
20	Q313#45	Q327#59	16	-31.00	0.95
21	Q313#45	Q31#33	16	-30.06	0.94
22	Q313#45	Q328#60	16	-29.03	1.04
23	Q313#45	Q43#64	16	-28.25	0.77
24	Q313#45	Q310#42	16	-27.29	0.96
25	Q313#45	Q320#52	16	-26.41	0.88
26	Q313#45	Q311#43	16	-25.49	0.92
27	Q313#45	Q314#46	16	-23.68	1.81
28	Q313#45	Q319#51	16	-22.06	1.62
29	Q313#45	Q317#49	16	-21.71	0.35
30	Q313#45	Q38#40	16	-21.53	0.18
31	Q313#45	Q39#41	16	-17.86	3.67
32	Q313#45	Q42#63	24	6.50	24.36

者で流行を追わない者」の43.5%にわずかに高い比率を示している。Q322に対するQ329のA I C値は4.11と独立と判定されたが「Q322×Q313×Q329」（表46）の組合せではA I C値は-40.1となり、有効な変数の組として選択されていることを見ても流行意識が、和服の着装行動と無関係であるとは断定できないことが多次元分割表で調べることによって明らかになった。つづいて説明変数を2変数に増加させた場合の結果を表45に示す。表によれば、「Q313×Q33」の組合せが関連度が大きく、つぎに「Q313×Q312」、「Q313×Q2（学年差）」……「Q313×Q39（衣服の洗たく）」と続いている。32説明変数中「Q313×Q42」だけの組合せが“独立”と判定される組合せであった。Q313を含んだ情報量が増加し“関連性あり”の組合せになったことがわかる。このことから見ても従来の χ^2 検定での1変数に対する“独立”（関連がない）という速断が、いかに誤った判定を下す

表47

CONTINGENCY TABLE WITH THE OPTIMAL COMBINATION OF EXPLANATORY VARIABLES
X(1):Q322#54 X(2):Q313#45 X(3):Q33#35

X X		RESPONSE VARIABLE					
2 3							
		X(1)	1	2	3	4	
1 1			107	21	6	3	137
1 2			4	10	5	1	20
1 3			6	4	3	2	15
1 4			3	2	2	6	13
2 1			19	27	8	2	56
2 2			1	13	6	4	24
2 3			0	1	1	0	2
2 4			0	2	4	4	10
3 1			1	8	9	1	19
3 2			1	1	2	3	7
3 3			0	0	2	1	3
3 4			0	1	0	0	1
4 1			3	5	1	5	14
4 2			0	0	1	3	4
4 3			0	0	1	2	3
4 4			0	1	0	0	1
TOTAL			145	96	51	37	329

		X(1)	1	2	3	4	
1 1			78.1	15.3	4.4	2.2	100.0
1 2			20.0	50.0	25.0	5.0	100.0
1 3			40.0	26.7	20.0	13.3	100.0
1 4			23.1	15.4	15.4	46.2	100.0
2 1			33.9	48.2	14.3	3.6	100.0
2 2			4.2	54.2	25.0	16.7	100.0
2 3			0.0	50.0	50.0	0.0	100.0
2 4			0.0	20.0	40.0	40.0	100.0
3 1			5.3	42.1	47.4	5.3	100.0
3 2			14.3	14.3	28.6	42.9	100.0
3 3			0.0	0.0	66.7	33.3	100.0
3 4			0.0	100.0	0.0	0.0	100.0
4 1			21.4	35.7	7.1	35.7	100.0
4 2			0.0	0.0	25.0	75.0	100.0
4 3			0.0	0.0	33.3	66.7	100.0
4 4			0.0	100.0	0.0	0.0	100.0
TOTAL			44.1	29.2	15.5	11.2	100.0

性格調査との関連からみた本学学生の被服に対する意識と行動について（第2報）

ことになる要素を包摂しているかがわかる。さらにCATDAPでは着目変数に説明変数との最適組合せを算出する。その最適組合せの分割表を表47に示す。表によればQ322「お正月には着物を着たいと思うか」に対しては、Q313（夏祭には浴衣）×Q33（成人式には振袖）が最適組合せとなっている。ここでカテゴリーの「そう思う」を＃1＃、「ややそう思う」＃2＃、「ややそう思わない」＃3＃、「そう思わない」＃4＃として表わし検討する。つまり着目変数Q322「お正月に着物を着たいと思うか」ではカテゴリー＃1＃が145名(44.1%)と最も多く選好され、つづいて＃2＃96名(29.2%)、＃3＃51名(15.5%)、＃4＃37名(11.2%)となっている。さらに、内訳を見ればQ322がカテゴリー＃1＃を選択した者の多くが(145名内107名)、Q313ではカテゴリー＃1＃を、Q33ではカテゴリー＃1＃を選択している。これらのことから、お正月に着物、夏祭に浴衣、成人式に振袖といった伝統的な行事や式典には多数の者が、和服を着用したいと望んでいることがうかがえられる。

Q42 あなたが一番着てみたい振袖を次の中から選んで下さい。

- | | |
|----------------------|--------------------|
| 1. 和洋折衷ふうでハイヒールを履き多色 | 2. 御所車の古典柄で地色は黒色 |
| 3. 花柄紵しぼりで地色は黄色系 | 4. 大正ロマン風で地色は茶色系 |
| 5. 御所車の古典柄で地色は朱色系で金色 | 6. 橘の古典柄で地色は鶯(とき)色 |

着目変数Q42（振袖の選択）に対して32説明変数のAIC値を表48にしめす。

表48

	(説明変数)	カテゴリー数	AIC値	AICの差
1	Q43#64	5	-96.10	0.0
2	Q2#32	2	-6.93	89.17
3	Q32#34	4	4.00	10.93
4	Q34#36	4	6.03	2.02
5	Q317#49	4	7.97	1.94
6	Q314#46	4	8.50	0.53
7	Q312#44	4	10.95	2.45
8	Q315#47	4	11.09	0.14
9	Q35#37	4	11.19	0.11
10	Q326#58	4	11.56	0.37
11	Q324#56	4	13.03	1.47
12	Q316#48	4	13.05	0.02
13	Q323#55	4	13.08	0.03
14	Q36#38	4	13.26	0.18
15	Q327#59	4	13.35	0.09
16	Q321#53	4	14.33	0.97
17	Q311#43	4	15.24	0.91
18	Q320#52	4	15.33	0.09
19	Q313#45	4	15.44	0.11
20	Q310#42	4	15.90	0.47
21	Q329#61	4	15.96	0.05
22	Q41#62	3	16.02	0.07
23	Q319#51	4	16.06	0.04
24	Q33#35	4	16.42	0.36
25	Q38#40	4	17.08	0.67
26	Q325#57	4	17.65	0.56
27	Q322#54	4	18.25	0.60
28	Q318#50	4	19.43	1.18
29	Q31#33	4	20.20	0.77
30	Q37#39	4	21.88	1.68
31	Q39#41	4	22.08	0.21
32	Q328#60	4	23.95	1.87

大手前女子学園（大手前女短大研集）「研究集録」第9号（1989年）

最も Q 42 に対して関連性の強い説明変数は Q 43「振袖の選択した理由」で A I C 値 -96.10 となり、つぎに Q 2「学年差」となり、32 説明変数の中ではこの 2 変数のみが有意な変数として選択された。この着目変数は好ましい振袖のサンプルを選ばせるという被服行動全般から見れば、かなり特殊な設問であることも有意な変数として選択される説明変数が少ないという結果になったものと思われる。Q 42 に対して関連度のある Q 2（学年差）について、分割表（表 49）で検討して見ると、着てみたい振袖では、「御所車の古典柄で

表 49

(Q42#63)								(Q42#63)							
	1	2	3	4	5	6		1	2	3	4	5	6	TOTAL	
(Q2#32)							(Q2#32)								
1	18	12	7	19	88	21	165	1	10.9	7.3	4.2	11.5	53.3	12.7	100.0
2	38	12	7	26	74	7	164	2	23.2	7.3	4.3	15.9	45.1	4.3	100.0
TOTAL	56	24	14	45	162	28	329	TOTAL	17.0	7.3	4.3	13.7	49.2	8.5	100.0

地色朱色系で金色」の者が 162 名（49.2%）と最も多く、その内訳は 1 年生では 88 名、2 年生では 74 名となっており、次いで「和洋折衷ふうでハイヒールを履き多色」の者が 56 名（17%）で内訳は 1 年生では 18 名、2 年生では 38 名、「大正ロマン風で地色は茶色系」の者が 45 名（13.7%）で内訳は 1 年生では 19 名、2 年生では 26 名の順となっている。ここで興味深いことは、2 年生の方が先進的なニュー着物的感覚を好み、1 年生では伝統的感覚で古典的なものを選択しているようである。次に 2 説明変数の組合せ（表 50）では、「Q

表 50

(説明変数)				カテゴリ数	AIC 値	AIC の差
1	Q43#64	Q2#32		10	-63.48	0.0
2	Q43#64	Q41#62		15	-7.71	55.77
3	Q43#64	Q325#57		20	13.78	21.49
4	Q2#32	Q41#62		6	23.72	9.95
5	Q43#64	Q317#49		20	26.59	2.86
6	Q43#64	Q312#44		20	27.19	0.60
7	Q43#64	Q319#51		20	30.40	3.21
8	Q43#64	Q316#48		20	35.29	4.89

以下省略

42×Q 43×Q 2」、「Q 42×Q 43×Q 41」の組合せが有意な組合せとして選択された。興味深いことは、1 説明変数では“独立”と判定された Q 41 の説明変数が Q 43 と合わされると A I C 値は -7.71 となり Q 42 に対して有意な説明変数に入ってくることである。さらに C A T D A P では着目変数に説明変数との最適組合せを算出する。その最適組合せの「Q 42×Q 43」の分割表を表 51 に示す。表によれば、着てみたい振袖と選択した理由では「御所車の古典柄で地色朱色系で金色」と「全体の色の調和が好ましいから選んだ」110 名（33.4%）の組合せが圧倒的に多く選好し、ついで「和洋折衷ふうでハイヒールを履き多色」と「着物が洋服感覚で現代的」34 名（10.3%）の組合せ、「大正ロマン風で地色は茶色系」と「全体の色の調和が好ましいから選んだ」25 名（8%）の組合せ、「御所車の古典柄で地色は朱色系で金色」と「昔からある柄、和服向き模様」の組合せの順となってい

性格調査との関連からみた本学学生の被服に対する意識と行動について（第2報）

表51

CONTINGENCY TABLE WITH THE OPTIMAL COMBINATION OF EXPLANATORY VARIABLES

X(1):Q42#63

X(2):Q43#64

X

-

2

-

RESPONSE VARIABLE

	X(1)	1	2	3	4	5	6	
1		12	19	11	25	110	21	198
2		34	1	1	1	3	1	41
3		5	1	0	1	15	1	23
4		1	2	2	8	25	2	40
5		4	1	0	10	9	3	27
TOTAL		56	24	14	45	162	28	329

	X(1)	1	2	3	4	5	6	
1		6.1	9.6	5.6	12.6	55.6	10.6	100.0
2		82.9	2.4	2.4	2.4	7.3	2.4	100.0
3		21.7	4.3	0.0	4.3	65.2	4.3	100.0
4		2.5	5.0	5.0	20.0	62.5	5.0	100.0
5		14.8	3.7	0.0	37.0	33.3	11.1	100.0
TOTAL		17.0	7.3	4.3	13.7	49.2	8.5	100.0

る。次に振袖を選好する理由を軸に見てみると、「全体の色の調和が好ましいから」が198名（60.2％）と極めて高い支持が得られた。色彩を第一に優先して選択するということは、例えばC E L誌¹³⁾によれば極めて心理面と直截的な想像力に依存する（大意）と述べられているが、本調査結果においても着て見たい振袖の選好に際しては、絵柄や豪華さよりもまず色彩によって選択されるということが明らかになった。

5 まとめ

前報の心理テストと被服に関する意識調査の分析結果から、更に研究を進めるために、

- 1 心理テストと心理素点
- 2 心理テストとアンケートⅡ
- 3 被服行動とアンケートⅠ
- 4 被服行動とアンケートⅡ

において、各々多次元分割表分析をA I C統計量を用いた分割表比較分析パッケージで、C A T D A Pにより分析を行い、関連性について検討した結果は次のようである。

(1) 心理テストと心理素点

- ・ A T W（カテゴリー化を行った）を着目変数とした場合は、Q 125（社会における知的な主導権は大部分、男性の手にあるべきである）など24項目と関連性がある。
- ・ I S R O（カテゴリー化を行った）を着目変数とした場合は、Q 112（重要な仕事

を数々抱えていても、やはり女性の本来いるべき場所は家庭なのである）など26項目と関連性がある。

- A T Wと I S R Oの両方に対して無関係である項目は、Q 14（仕事を持つということは、自分自身の人生を生きているということだ）とQ 16（キャリアを求める女性にとって、出産や育児がその障害となることがあってはならない）である。
- A I C統計量による分析結果から、A T Wと I S R Oとの共通性が検証された。
- A T Wのカテゴリー区分で、被験者の大部分はカテゴリー（グループ）1（1～25点）、カテゴリー（グループ）2（26～33点）に属しており、保守的なグループに属しているといえる。
- A I Cによる多次元分割表分析で、有意に選択された説明変数との分割表を検討すれば、A T Wグループ1とグループ2の意見の相違を見ることができる。例えば、Q 125（社会における知的な主導権は大部分、男性の手にあるべきである）に対して、グループ1では肯定派が過半数であるが、グループ2では大部分が否定派である。
- I S R Oのカテゴリー区分においても、被験者の大部分はカテゴリー3（50～59点）、カテゴリー2（40～49点）に属しており、かなり保守的である。
- Q 112（重要な仕事を数々抱えていても、やはり女性の本来いるべき場所は家庭なのである）に対しては、被験者の半数以上が肯定派であり、伝統的な性役割志向性が強くなる程肯定する比率が高い。

(2) 心理テストとアンケートⅡ

- A T W（カテゴリー化を行った）を着目変数とした場合は、Q 33（成人式には振袖を着たいと思いますか）が最も関連度が強く、伝統尊重・保守型になる程和服に対する着装意識が高いが、他の和服に関する項目がA T Wに対して無関係である原因は、A T Wグループの3、4に属する被験者の回答パターンのバラツキにあるために、この15名の被験者を除外して、改めてA I C値を算出したところ、関連度の強さの順序がかなり変動し、「和服イコール伝統的・保守型」というイメージと共に種々の情報が得られたが、A T W（I S R O）テストにおいては、更に年齢を考慮して判定すべきであるという結論に達した。
- I S R O（カテゴリー化を行った）を着目変数とした場合は、Q 312（成人式にはあなたは振袖よりも個性的な洋服を着たいと思いますか）が最も関連度が強く、A T Wテストの場合と同様に、振袖は伝統的・保守型のsymbolという結果とはなったが、その他I S R Oと関連性のあるQ 41（着てみたいと思うスタイル）やQ 34（人間は服装よりも自分自身が大切だから、着るものにこだわらない方が良いと思いますか）の被服に対する若年層の意識の多様性を痛感した。

性格調査との関連からみた本学学生の被服に対する意識と行動について（第2報）

(3) 被服行動とアンケートⅠ

被服行動に関する32項目の各着目変数に対して、説明変数間で有意に選択された項目数は決して多くはなかったが、いくつかの項目間には興味ある結果が示された。

- Q33（成人式には振袖を着たいと思いますか）を着目変数とした場合は、最も関連度が強い項目はQ112（重要な仕事を数々抱えていても、やはり女性の本来いるべき場所は家庭なのである）であり、分析結果から、成人式に振袖を着たいと思う被験者の半数以上は家庭での男女の役割については、かなり保守的で古風な考え方を持っているが、社会的、職業的な男女の平等観（Q124、Q125）はかなり強いことが明らかとなった。
- Q35（あなたは他人と同じような服装をするのが嫌いで、個性的な服を着る方であると思いますか）を着目変数とした場合は、Q119（結婚式で「あなたは、夫に従いますか…」という一節があるのは女性にとって侮辱的なことである）とQ19（女性は家にいて、子どもの世話をしている方がずっと幸福である）が関連性があり、分析結果から、個性的な服を着る方でないと思っている被験者は、男女の平等観（Q119）がやや弱く、家庭を重視（Q19）する傾向が見られる。
- Q36（あなたは有名ブランドの服を着たいと思いますか）を着目変数とした場合は、Q124（女性がブルドーザーを運転したり、男性が編物するのは、ばかげたことである）が最も関連度が強く、分析結果から、高級ブランドの服を着たいと思わない被験者は、職業的、社会的な男女の平等観（Q124、Q125）がやや強いことが認められる。
- Q318（あなたは服装によって性的魅力を発揮できると思いますか）を着目変数とした場合は、Q18（女性にも男性と全く等しい雇用の機会が与えられるべきである）とのみ関連性があり、分析結果から、就職の問題をかかえている短大生（被験者）にとっては、まず、男性と等しい雇用の機会が与えられることの方を優先して考えているようである。
- Q328（あなたは流行に関心はあるが、洋服の着心地や経済性および好みも考えてから取り入れる方であると思いますか）を着目変数とした場合は、Q13（母親が働いていると、就学前の児童には害のおよぶことがある）、Q129（一般的に父親は育児に際して母親より大きな権威を持つべきである）、Q116（肉体的な重労働が女性に向かないように、精神的、感情的特質ゆえに女性に向かない仕事もいろいろあるということを、女性自身が自覚すべきである）の順に関連性があり、分析結果から、流行は考えてから取り入れるという慎重派は、育児（Q13、Q129）や職業（Q116）の面では、かなり伝統的であり、古い因習を守ろうとしていることがうかがえる。

(4) 被服行動とアンケートⅡ

Q31「あなたは自分に似合う服を上手に着こなしていると思うか」の設問では約60%の者が「そう思う」、「ややそう思う」と回答し合格点を与えているが、被験者の自己採点を課してるためか被服学科の学生である点を考慮すると控え目な結果であると思われる。

さらに、似合う着こなしや選択行動に対しての関連度の強い項目は、流行に対して消極的であり、個性的な服の着用も同傾向を示し、TPOを重視し、異性や同性を意識して服装の着こなしを配慮するといった項目間に有意差が認められた。つまり、自分らしい衣服を着こなしたいと思いながら、流行意識や個性的な服を着用して他人との違いを積極的に出すことには一面躊躇していることが伺えた。「自分に似合う服を上手に着こなしていると思うか」の場合の最適組合せは「人よりすぐに流行を取り入れるか」である。似合う服を着こなしているということは、着る人と着る物のイメージのつながりをもっているということであるので、被験者はそれなりの評価をしている。流行については、ジンメル¹⁴⁾によれば、「他者と区別を求める欲求——他者との同調を求める欲求」という、ある意味で矛盾した力を含む2種類の欲求から流行を説明している。これらのことを考慮して検証すると、被験者の流行に対しての意識行動がかなり消極的であることがわかる。

Q33「成人式には振袖を着たいと思うか」に対して関連度の強い項目は、成人式には個性的な洋服よりもあくまでも振袖を着たいと思い、お正月には着物を着たいと思い、慶弔には伝統的な民族衣裳である和服を着たいと思っている項目間に高い有意差が認められた。さらに1説明変数では流行意識に関する項目においては独立とみなされていたが、2説明変数での組合せでは、有効な変数の組として選択されており、成人式には振袖を着たいという着目変数に対して関連性があることが明らかになった。和服においては一般的に伝統柄は流行には敏感でないとされていたが、近年、衣生活の多様化とともに洋服デザイナーの創作による洋服感覚の和服柄が導入され、洋服ほどでもないが流行を取り入れられている現実を考えると、我々が今回実施した調査分析結果と奇しくも一致している。なお最適組合せは「成人式には振袖を着たいと思うか」と「成人式には振袖よりも個性的な洋服を着たいと思うか」であった。

Q36「あなたは有名ブランドの服を着たいと思いますか」に対しての関連度の強い項目はブランド商品は高価だと思い、流行意識に関する項目間では消費的な態度であるといった項目間に有意差が認められた。また、学年差間の有名ブランドの服に対する意識の差については単独の項目としてみなされたが、多次元分割表分析ではブランド商品は高価だと思うかの項目との組合せで関連性があるという結果が得られた。このことは学年差間の「有名ブランド商品に対する意識」には微妙な相違があることを

性格調査との関連からみた本学学生の被服に対する意識と行動について（第2報）

示している。つまり、2年生では現実的に一流ブランド志向であるのに対して、1年生ではブランドへの羨望感が強く出ているといったことが明らかになった。また、「有名ブランドの服を着たいと思うか」の場合の最適組合せは、「ブランド商品は高価だと思うか」であった。

Q37「あなたはTPOに合わせて適切な衣服の選択」の設問では約85%の者が合格点を与えている。これは被験者自身の主張が反映されている。つづいて、TPOに合わせて衣服の選択行動における関連度の強い項目は、着こなしの選択に対しては積極的であり、異性より同性の目を意識しながらであり、服装による自己表現の手段は重視しといった項目間に有意差が認められた。つぎに最適組合せでは「TPOに合わせて衣服の選択」と「着こなしの選択」である。従来、季節変化に富むわが国の自然環境ではぐくまれた衣服の着装習慣では季節ごとに着わけが行われて来た。しかしながら新しい生活環境（例えば冷暖房の完備など）の変化により、服装に対する画一化が進み、TPOの重視に象徴されるような個々人により服装自己管理意識が、浸透してきたことをも併せて我々の今回の調査結果にも同様の傾向が認められた。

Q318「あなたは服装によって性的魅力を発揮出来るか」の設問では、衣服の着こなしや選択行動に満足し、華やかな服装の嗜好度や異性の目の意識の項目に対しては肯定グループと否定グループの意見が二分化され、流行に対しては消極的な態度であるといった項目間に強い相関が示されている。一方では、和服に対する着装行動に関する項目には独立（関連がない）という結果が得られた。これについては、従来、和服は被服構成学上からいえば平面構成で和服を製作されており、そのためか和服を身につける場合は身体を覆い隠すものと考えられていた。したがって和服には性的吸引の要因が認められないことが本調査結果より証左されたといえるのではなかろうか。最適組合せは「服装によって性的魅力を発揮出来るか」と「服装は自己表現力の有力な手段」であった。

Q322「あなたはお正月に着物を着たいと思うか」に対しての関連度の強い項目は、夏祭には浴衣を着たいと思い、成人式には振袖を着たいと思い、慶弔の式には伝統的な民族衣裳の和服を着たいと思い、成人式には振袖よりも個性的な洋服を着たくないといった項目間には有意差が認められた。また、流行意識に関する項目においては成人式の振袖の選択行動の設問項目と同傾向を示している。最適組合せは「お正月には着物を着たいと思うか」に対しては、「夏祭には浴衣を着たいと思うか」と「成人式には振袖を着たいと思うか」の組合せになっている。

Q42「振袖の選択に対しての設問は振袖の選択した理由と学年差に相関関係が示されている。学年差については1年生の方が従来の伝統的な和服を選好する傾向が見受けられ、2年生では斬新的な感覚の和服の傾向がみられた。「振袖選択」の場合の最

適組合せは「振袖の選択した理由」である。この結果は色彩を第一優先して選好されている。色彩はエモーショナル（情動的）な、人の感情に訴えかけやすいもので、いろいろな感情を端的に現わしているといわれているが、振袖の選択に関してもこの基本原則は生きているようであり、本調査結果でも同様の結果を得られた。

謝 辞

本研究を行うに当り、機会を与えていただきました福井秀加学長に深謝いたします。

また、貴重な資料を御提供くださり、種々の御助言を賜りました早稲田大学東 清和教授に謹んで御礼を申し上げます。

さらに、分析に当り、終始御懇切なご助言を賜りました京都大学大型計算機センター高井孝之氏に深く感謝し、厚く御礼を申し上げます。

調査実施に際しましては、大手前女子短期大学学生に御協力をいただきました。記して謝意を表します。

〔引用文献〕

- 1) 東清和・小倉千加子：性役割の心理、大日本図書（1984）.
- 2) 笹山益子・青海邦子：性格調査との関連からみた本学学生の被服に対する意識と行動について；大手前女子短期大学研究集録8、（1988）.
- 3) Katsura, K. and Sakamoto, Y. : CATDAP, Computer Science Monographs, No.14, The Institute of Statistical Mathematics, Tokyo（1980）.
- 4) SAS USER'S GUIDE : Basic 1982 Edition, SAS Institute Inc.,（1982）.
- 5) 赤池弘次：情報量規準 A I C とは何か、数理科学、No.153（1976）pp.5-11.
- 6) 坂元慶行：カテゴリカルデータにおける変数選択プログラム—C A T D A P を中心に—、統計数理研究所彙報、第28巻第1号（1981）pp.135-155.
- 7) 坂元慶行：カテゴリカルデータの解析、数理科学、No.213（1981）pp.24-29.
- 8) 坂元慶行、石黒真木夫、北川源四郎：情報量統計学、共立出版（1983）.
- 9) 坂元慶行：カテゴリカルデータのモデル分析、共立出版（1985）.
- 10) 東・小倉：前掲書
- 11) 坂本・石黒・北川：前掲書
- 12) 元井 能：日本・西洋被服文化史、光生館（1970）.
- 13) C E L・Vol.10（'89）
- 14) Brownfain, J. J., 1952. "Stability of The Self-Concept as A Dimension of Personality", *The Journal of Abnormal and Social psychology*, 47, No. 3, July, pp.597-606, Measurement of Self-Concept p.598.